

# 2025 年度

## 産学連携教育プログラム

### 実施報告書

2025 年 12 月



## ごあいさつ

2025年度産学連携教育プログラムの実施にあたり、ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、今年度は147名の大学生が就業体験をさせていただく機会を与えていただきました。それら修了生が実践から「働く」を考え社会人基礎力を養えたものと認識しております。

受入先、学生の双方がよりメリットを享受できるプログラムとして、発展できるよう皆様より引き続きご理解とご協力を賜りたく、今年度の産学連携教育プログラムの実施状況を本書にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。



プロジェクト企画実践コース 総合コーディネーター  
桜沢 隆哉  
京都女子大学 法学部 教授

プロジェクト企画実践コースでは、受入先企業・団体が提供するプロジェクトの最終目標を達成するため、学生が主体的に「計画」を立て、それを「実行」していきます。とくに実行する過程では想定外の困難に直面し、計画の甘さや実行力など様々な課題も明らかになってきます。この課題に気付くことこそが自分自身が成長するきっかけになるのだと考えています。

今年度も長期にわたるプロジェクトで学生を受け入れて下さった受入先企業・団体に感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



エクスターンシップ（就業体験）コース／ビジネスクラス  
総合コーディネーター  
多田 実  
同志社大学 政策学部 教授

2024年度から変更になった「エクスターンシップ」という名称。まだまだ聞き慣れない呼び名だと思いますが、大学コンソーシアム京都が本プログラムで長年貫いてきた「教育プログラム」という基本スタンスが、ある意味、強調される名称ですので、原点に戻ったような気持ちになっています。これからも「初心」を忘れず取り組んでいきたいと考えておりますので、今後とも益々のご支援ご協力、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



エクスターンシップ（就業体験）コース／パブリッククラス  
総合コーディネーター  
古川 秀夫  
龍谷大学 国際学部 教授

パブリッククラスでは、公共性や社会貢献を志向した実習プログラムが地方自治体や非営利組織から提供されています。受講生は、実習を通して公務員やNPO職員へのキャリア意識を醸成するにとどまらず、市民の一員として享受する行政サービスの重要性やNPOの存在意義なども認識します。近い将来どんな職業に就いたとしても、受講生の全てが公共心あふれた善き市民になることを強く念願し、確信するものであります。

## 目 次

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 産学連携教育事業の変遷	1
第2章 2025年度産学連携教育プログラムの実施内容	2
1 プログラムの概要	2
2 プロジェクト企画実践コースの実施内容	4
3 エクスター・シップ（就業体験）コースの実施内容	5
4 プログラムの運用にあたって	5
5 リスクマネジメント	7
第3章 受入企業・団体のアンケート結果から	8
第4章 受講生のアンケート結果から	15
第5章 今後の課題	27
1 産学連携教育プログラムをめぐる状況	27
2 財団における今後に向けた取組	27
<資料>	
資料1 出願者・受講者数と受入企業・団体数について	28
資料2 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移	29
資料3 受入先登録企業・団体一覧	30
資料4 プロジェクト企画実践コース講義概要	32
資料5 プロジェクト企画実践コース プロジェクト別コーディネーター一覧	33
資料6 エクスター・シップ（就業体験）コース講義概要	34
資料7 エクスター・シップ（就業体験）コース コーディネーター一覧	35
資料8 受講生意識調査集計結果	36

## 第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 産学連携教育事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都（以下「本財団」という。）が窓口となって実施する産学連携教育プログラム（以下「本プログラム」という。）は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、コーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入先への訪問や意見交換会の実施、修了生や受入先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと社会情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。中でも、2021年度以降、感染症等による社会状況の変化に対する学びの機会の確保等の観点から、選考面接、事前・事後講義についてなどオンラインを積極的に活用してプログラムを運営している。

これまでに京都地域にある大学・短期大学（以下「大学」という。）のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ6,000を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、延べ約1万名の学生が参加し、受入先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

本プログラムの開始以降、全国の大学でも独自の取り組みが進められている。現在、インターンシップをはじめとするキャリア教育を実施している大学は、大幅に増加しており、大学生の課外活動として定着したと言える。他方で、2022年6月に一般社団法人日本経済団体連合会と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」による協議を受けて、「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進にあたっての基本的な考え方」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）が一部改正された。この基本的な考え方では「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」が4つの類型に整理され、一定の要件を満たすインターンシップに限り、今年度以降に企業・団体が学生の情報を広報活動・採用選考活動に使用できることとされた。それを受け、大学コンソーシアム京都が実施するインターンシップ・プログラムは、タイプ2「キャリア教育」に位置づけられるプログラムとして実施することとし、本プログラムの名称を「産学連携教育プログラム」と改めた。これらの状況に鑑み、本プログラムも社会の変化に応じて、さらなる充実をめざすために、「産学連携教育事業企画検討委員会」にて、時代に即したプログラム等について検討を重ねている。

また、各大学との連携について、2014年度から本プログラムを受講した学生に対し、大学が正課科目として単位認定をする場合、大学と本財団の間で産学連携教育プログラムの運営に関する委託契約を新たに締結する運用を開始した。

今後も、意欲ある学生が本プログラムに参加でき、これまで以上に高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進する。

## 第2章 2025年度産学連携教育プログラムの実施内容

### 1 プログラムの概要

#### (1) コースの設定

##### ア プロジェクト企画実践コース

受入企業・団体が提示したテーマを実現するプロジェクト型として実施する。プロジェクト期間は、6月から11月までの約5か月間で、年1回の実施である。

##### イ エクスターンシップ（就業体験）コース

企業・行政機関・非営利組織において就業体験を行う実践型として実施する。実習期間は、8月から9月中旬までの間に実働10日以上で設定され、年1回の実施である。

#### (2) 受入企業・団体の登録

2025年度は、前年度産学連携教育プログラムの登録企業・団体を中心に、新規企業の開拓にも注力し、約290の企業・団体に対し産学連携教育プログラムへの登録を依頼した。

受入企業・団体の登録を依頼する際には、キャリア教育プログラムとしての理解を得るための案内パンフレット及び受入先ガイドブックの送付並びに電話連絡を中心に、実習日数の確保や実習内容の設定について説明を行った。

このような依頼に対し、エクスターンシップ（就業体験）コースに126、プロジェクト企画実践コースに12、合計138の企業・団体からの登録を得た。

##### 《 登録企業・団体内訳 》

	継続		復活※		新規		合計
エクスターン／ビジネス	88	(86)	1	(9)	8	(4)	126
エクスターン／パブリック	27	(29)	1	(1)	1	(0)	
プロジェクト企画実践	8	(7)	0	(1)	4	(2)	12
合計	123	(122)	2	(11)	13	(6)	138

※昨年度未登録で、今年度に再登録のあった企業・団体数

#### (3) 学生の募集

学生募集にあたっては、主に募集ガイドブック、電子チラシ及びポータルサイトを中心に広報を実施した。本財団に加盟している大学のうち35大学、そして非加盟大学9大学に募集ガイドブックを配布し、プログラム周知を依頼した。これらの資料は産学連携教育プログラム・ポータルサイトにも掲載し、学生が常に情報にアクセスできる環境を整えた。

各大学で開催されるインターンシップ等説明会でのガイダンスを9大学で実施。また、例年、キャンパスプラザ京都で実施していた説明会は、昨年度に引き続きオンラインでの開催とし、説明会では産学連携教育プログラムの全般的な説明の他、修了生による経験の共有、個別相談会での質疑応答等を行った。

##### ア 産学連携教育プログラム説明会・相談会

日 時 4月12日(土) 18:00～20:00 参加学生数79名

会 場 オンライン（Zoom）

内 容 2025年度産学連携教育プログラムの概要説明

修了生（3名）による体験談

実習先からのメッセージ  
大和電設工業株式会社  
総務部総務課 係長 土肥 遥 氏  
関西巻取箔工業株式会社  
取締役C.0.0 久保 昇平 様  
修了生ブースによる相談会  
イ プロジェクト企画実践コース説明会・相談会  
日 時 4月17日(木) 18:00～20:00 参加学生数17名  
会 場 オンライン (Zoom)  
内 容 2025年度産学連携教育プログラムの概要説明  
受入先によるプロジェクト紹介  
修了生(2名)による報告  
受入先(4団体)・修了生(2名)による個別相談会

#### (4) 出願及び面接

本財団への加盟・非加盟を問わず、各大学の正規学生及び大学院生であれば、学部・学年を限定せず出願可能とした。

出願手続き及び面接については、学生の利便性向上等の観点から、昨年度に引き続き、Web出願、オンライン面接とした。面接は出願者全員に対して行い、実習を最後までやり遂げ、さらに向上心があるかを確認する観点で質問を行った。

ア Web出願  
4月11日(金)～5月9日(金) 出願者198名  
※最終5月10日(土)まで募集延長  
イ オンライン面接 (Zoom)  
5月16日(金) 15:30～19:30  
5月17日(土) 10:00～16:30

#### (5) 選考及びマッチング

出願者に対する選考は、受入先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。選考方法は、受入先企業・団体の登録に基づき決定し、学生へ情報開示した。本財団が選考を行う場合には、受入先が提示する受入要件を満たしているか、また志望理由と実習内容が適合しているかを検討した上で、受講許可を与えた。

2025年度プログラムに登録した受入先企業・団体のうち、受入先による選考を選択したのは27、本財団による選考を選択したのは111であった。

なお、プロジェクト企画実践コースは、長期間にわたって実施するプログラムであり、出願者のプロジェクト内容の理解を確認するため、全て受入先による選考とした。

#### (6) 受講手続

受講料は、2025年度は京都市の施策により無料とした。

(7) 参考：2025 年度コース別出願者数 / 登録団体・受入団体数 ( ) 内は 2024 年度実績

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
エクスターインシップ/ビジネス	183	(136)	107 (78)	93 (71)	97 (99)	51 (44) 52.6% (44.4%)
エクスターインシップ/パブリック			48 (44)	42 (40)	29 (30)	23 (21) 79.3% (70.0%)
プロジェクト企画実践	15 (23)	14 (20)	12 (19)	12 (10)	5 (8)	41.7% (80.0%)
合計	198 (159)	169 (142)	147 (130)	138 (139)	79 (73)	57.2% (52.5%)

## 2 プロジェクト企画実践コースの実施内容

### (1) 実施プロジェクト

今年度のプロジェクト企画実践コースにエントリーした 12 団体が提供する 12 プロジェクトのうち、5 プロジェクトが成立した。5 プロジェクトの内容と受講者数は、資料 5 のとおりである。

### (2) 講義概要

#### ア プロジェクトの導入

オリエンテーションとしてプログラムの概要や諸注意等の説明を行った後、各プロジェクトに分かれてミーティングを実施した。ミーティングでは、プロジェクトメンバーの相互理解を進めるとともに、受入先からの目標提示を受け、講義の最後に、各プロジェクトの概要を全体に発表した。

また、オンデマンド配信によりリスクマネジメント講習を実施し、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

#### イ プロジェクトの形成

プロジェクト形成の概要を学んだ上で、プロジェクトの目標、成果及び活動を明確にし、活動計画を設定し、他のチームの受講生と意見交換を行うことでプロジェクト活動の完成度を高めた。また、プロジェクト形成と併せて、映像コンテンツの活用法を学ぶプレゼンテーショントレーニングを実施した。

特別講演では、プロジェクトを成功に導くために必要な、プロジェクトの構築とコミュニケーションをテーマにご講演いただいた。

#### 「講演概要」

日 時 2025 年 6 月 26 日 18:30～19:30

テー マ プロジェクトの構築とコミュニケーション

講 師 株式会社インサイトハウス CHO 兼 企業支援事業部長

太田 英樹 氏

#### ウ プロジェクトの実施

主に受講生の夏期休暇を利用して、活動場所を受入先に移しプロジェクトを実施した。プロジェクト活動については、対面を中心にインタビュー等を実施しながら、適宜、オンライン会議等によりチーム内で作業の進捗状況を共有した。

受講生は、サマーセッションとして映像コンテンツによる夏期活動中間報告を実施し、同セッションでは、今後の活動に係る個人ごとの目標について発表した。

#### エ プロジェクトの振り返り

プロジェクトにおける夏期休暇終了時点の進捗状況の報告とそれに対する意見に基づき、ファイナルプレゼンテーションまでの目標等を確認した。また、プロジェクトの評価方法を学び、受入先

から提示のあった目標に対するアプローチの妥当性や有効性等について、プロジェクトごとに評価を行った。

#### オ プロジェクト報告・評価

講義最終日に、ファイナルプレゼンテーションを実施し、約5か月間の活動報告とその成果について発表した。また同日、今後のキャリア形成に向けて、プログラムの受講を通じた自己の変化を振り返る自己評価の時間を設けた。

受講生は、全てのプログラム終了後、プロジェクト報告書及び学習レポートを提出した。

### 3 エクスターーンシップ（就業体験）コースの実施内容

#### (1) 実習受入れについて

今年度は、ビジネスクラスで51団体に107名、パブリックコースで23団体に48名の学生に対し受講許可を決定した。出願者と受講者数については、資料1のとおりである。

#### (2) 講義概要

今年度の事前学習及び事後学習については、昨年度に引き続き、社会状況の変化に対応できるよう全てオンラインにて開催した。講義内容については、以下のとおりである。

##### ア 事前学習

事前学習は、実習に向けた仮説と目標の設定と業界研究を通じたそれらの言語化を目的として、ゼミ形式で実施した。業界研究については、修了生15名、受入先企業・団体のご担当12名の方のご協力を得て実施し、社会が求めるスキルや心構えなどについても学習する機会とした。

##### イ ビジネススキル研修

外部講師を招いて、コミュニケーショントレーニング及びスキルアップトレーニングを実施した。コミュニケーショントレーニングでは、就業意識の向上、オンライン及び対面時を想定したビジネスマナーの基本、コミュニケーション能力等について学習した。また、スキルアップトレーニングでは、ロジカルシンキングの獲得を目指し、実践的理論を学んだ。

##### ウ リスクマネジメント講習

リスクマネジメント講習は、事前学習の初日及び最終講義日の2度に分けて実施した。講義では、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

##### エ 事後学習

実習で得た経験や課題等についてクラスで共有し、相互理解を深めた。また、他者の経験を踏まえた仮説の検証や成長点の確認により、プログラム終了後も継続する学生生活へと繋げた。

「実習経験交流会」では全クラスを3グループに分け、その中でクラスごとに発表の後、他クラスからのコメントを元にした振り返りを行った。他クラスの経験も学び、幅広い知見をもって自己の学習を振り返る機会とした。

### 4 プログラムの運用にあたって

#### (1) 受入先企業・団体との連携

プロジェクト企画実践コースにおいては、初回講義開始前に受入先との合同会議を実施し、年間スケジュールや学生を受け入れる際の重要事項を伝達した。

エクスターーンシップ（就業体験）コースにおいては、マッチング後に説明会を実施し、学生を受け入れる際の重要事項を伝達するとともに、コーディネーターとの意見交換の時間を設けた。また、受

講生の実習日に、コーディネーターが受入先を訪問（オンライン面談及び電話を含む。）し、実習状況の確認を行った。

ア プロジェクト企画実践コース受入先との合同会議

日 時 6月19日(木) 18:00～18:30

会 場 キャンパスプラザ京都

参加数 受入先ご担当者 6名

内 容 2025年度のプログラム概要及び担当コーディネーターとの方針確認

イ エクスターンシップ（就業体験）コース受入先担当者説明会

日 時 6月12日(木) 17:00～18:30

会 場 オンライン（Zoom）

参加数 受入先ご担当者 39名

内 容 2025年度産学連携教育プログラムの概要と講義内容について  
実習生の受入れについて

受入先様による「産学連携教育プログラムに対する想い」

大和電設工業株式会社 土肥 遥 氏

受入先ご担当者とコーディネーターとの意見交換

**(2) 大学・短期大学との連携**

学生の所属大学と連携し、プログラムの広報及びプログラムの運営に係る情報共有を行った。プログラムの広報については、第2章1(3)のとおりであり、プログラムの運営に係る情報共有については、実習の実施状況、受入先との連携及び学生対応の方針の共有を重点的に行った。

また、本プログラムを大学が単位認定する場合、産学連携教育プログラムに関わる単位委託契約の締結を行った。

**(3) 産学連携教育事業企画検討委員会**

大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学連携による教育プログラムとして実施している。

本委員会は、財団のミッションである大学間連携プログラムを推進する中で、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育としての産学連携教育事業を推進し、加盟大学の教育の質向上と実社会に則した教育効果のあるプログラムに資する検討の場としている。

上記目的を達成するために、本委員会で議題とする内容は、各コースコーディネーター会議においても報告し、また必要に応じて議題とし、事業運営の方針となりうるよう綿密に連携を取り進めることとしている。

ア 教育プログラムとしての質的向上に向けた主な審議事項

・2026年度実施方針の策定に向けた課題について

イ 開催日程

第1回 2025年6月27日(金)

第2回 2025年10月24日(金)

第3回 2025年12月5日(金)

第4回 2026年2月20日(金)

ウ 産学連携教育事業企画検討委員会構成委員

委員長 古川 秀夫 龍谷大学 国際学部 教授

副委員長 多田 実 志同社大学 政策学部 教授

委員 桜沢 隆哉 京都女子大学 法学部 教授

黒宮 一太 京都文教大学 総合社会学部 准教授

濱田 崇嘉 龍谷大学 経営学部 教授

坂本 清彦 龍谷大学 社会学部 准教授

木下 翔吾 大谷大学 学生支援部キャリアセンター

乾 芙美香 京都先端科学大学 キャリアディベロップメントセンター

インターンシップ推進課

代崎 拓也 京都文教大学 就職部就職進路課

青柳 祐 立命館大学 衣笠キャリアオフィス

渡邊 直裕 京都産業大学 キャリア教育センター

土肥 遥 大和電設工業株式会社

## 5 リスクマネジメント

### (1) 三者協定書の締結

実習及び単位認定が円滑に進められるよう、全受入企業・団体と受講生の所属大学、本財団の三者間で「実習生派遣に関する協定書」を締結した。

### (2) 保険

本財団では、プログラム開始から終了までの期間（実習期間を含む）、全コースの受講生を対象として、普通傷害保険及び個人賠償保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。

なお、2025年度については、保険金請求事例は発生しなかった。

【傷害保険】 死亡・後遺障害 500万円／入院保険金日額 4,500円／通院保険金日額 3,000円

【賠償責任保険】 てん補限度額 1億円（自己負担額 0円）

### (3) ハラスメントに対する取組

ハラスメント相談窓口を設置し、実習生をサポートする体制を整えている。ハラスメント相談窓口については、オリエンテーション及びリスクマネジメント講習にて受講生に案内した。また、受入先に対しては、ハラスメント対策について、各コース受入先ご担当者説明会にて説明を行った。

## 第3章 受入企業・団体のアンケート結果から

今年度の産学連携教育プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「かなり満足」「やや満足」を合わせた数字から算出すると97.3%であった。また、次年度の受入れ予定については、60.3%の受入先が「受入れる予定である」と回答されており(2024年度は65.6%、2023年度は77.5%)、ご負担が多いにもかかわらず、多数の受入先から支持を得たことが窺える。一方、プログラムに対するご意見については改善点として認識し、今後検討していくこととする。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

### I. アンケートの実施要項

#### 1. アンケート実施日

エクスターントップ（就業体験）コース

2025年8月1日～10月2日（実習終了後）

プロジェクト企画実践コース

2025年11月中旬（プロジェクト終了後）

#### 2. 回答数

	企業・団体数	回答数	回答率
エクスターントップ（就業体験）コース／ビジネス	51	46	90.2%
エクスターントップ（就業体験）コース／パブリック	23	22	95.7%
プロジェクト企画実践コース	5	5	100.0%
総計	79	73	92.4%

### II. アンケートの集計結果

#### 1. 受入れについて

●ご準備いただいた実習内容に対し、実習生のマッチングについてはいかがでしたか。

	エクスターントップ ビジネス		エクスターントップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①満足している	39	84.8%	17	77.3%	3	60.0%
②どちらでもない	6	13.0%	3	13.6%	2	40.0%
③不満がある	1	2.2%	2	9.1%	0	0.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

##### 【①の理由】

- ・意欲的で学ぶ姿勢が素晴らしいです。
- ・実習に取り組む姿勢や事前準備もしっかりできる実習生を選考いただけた。
- また接客をしたいというご本人のご希望と当社の実習内容ともマッチしたと考えます。
- ・実習生の興味関心や大学での専攻、現在考えている就職希望等にマッチした内容であったため、大変意欲的に実習に取り組んでいただきました。
- ・学生の選考内容と団体の活動内容がマッチしていた。
- ・来館者とのコミュニケーション、来館者のための新しい企画の考案に大変意欲的でした。
- ・誠実かつこちらが求める以上のレベル感でプログラムに取り組んでくれたため。
- ・大学職員として必要な能力を身につけようとする姿勢が感じられた。
- ・実習生全員が意欲的にかつ真面目に取り組んでいたため。
- ・本人が興味のあるSNS運用を中心に実習を計画していたため、ミスマッチはなかった。
- ・コミュニケーション力が高く、大学の入試広報部を進路として検討していたため。
- ・全ての業務に積極的に取り組んでいた。
- ・実習生のやりたいことを形にしたため。
- ・積極的に実習に取り組んでいたため。
- ・学生さんの実習態度が熱心で前向きだったため。
- ・意欲が高かった。弊社のプログラムのどの部分に興味があるかとかが言語化できてた。
- 弊社にも興味があるというのが伝わった。
- ・将来、福祉業界への就職を視野に入れ参加されていたため、事業所としても新卒採用にあたって学べることがあった。
- ・技術について理解が難しい部分もある中で、積極的に取り組んでいただけたように思うため。
- ・とても熱心で、よく動いてくれたし、こちらも良い影響を受けた。
- ・今回来ていただいた学生さんはとても良い学生さんでした。ありがとうございました。
- 来年以降は、3回生の学生さんであれば、尚ありがたいと思います。

- ・トラブルなく実習が実施できた。
- ・日本文化と接客に興味をもっておられたので。
- ・企画や出版に興味がある学生さんが多かったため。
- ・たくさんの事業所や職種を見ていただけたため。
- ・とても積極的に取り組まれていました。
- ・とても礼儀正しく、また積極的に取り組んでおられました。
- ・当社の難解な課題を打開できるチャレンジ精神のある学生様をマッチングいただき感謝しております。
- ・山間地域の人と生活、自然に興味を持っている方に参加していただきたかったが、まさしく今回来ていただいた2人はそれに適していると同時に、花背を訪問することですます興味を持っていただけたと思うから。

【②の理由】

- ・当人が事前に臨んでいた研修内容とミスマッチがあったと思う。
- ・全体的にはよく頑張ってくれたと思いますが、こちらが色々言わないと動かなかつたり抜けがあつたりした部分が多く、苦労したところが今年は特に多かった。
- ・弊社での実習内容は毎年学生主体で企画を考えて実現する形に対して、取り組み当初はその趣旨に理解が乏しかった様に感じました。

【③の理由】

- ・当初、客室部でお話させていたが、できなかつたため。
- ・技術系人材のインターンシップ生を募集している中、技術系ではない人材を送り込むことについて、実習担当者が募集内容を理解して学生を選定しているのか疑問。技術系人材でなければ分からぬ実習内容も多くあり、大幅な実習内容の見直しが必要となつた。今後はその点を踏まえて学生を選定していただきたい。
- ・今年度の実習生は、実習に真摯に取り組んでおられ、実習自体には非常に満足しているが、居住地がかなり遠方であったこともあり、採用活動に繋がる見込みが非常に乏しいと感じたため。

●実習内容は主にどのようなものでしたか。

	エクスターントップ ビジネス		エクスターントップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	29	63.0%	7	31.8%	2	40.0%
②社員の補助的な業務の一部を体験	13	28.3%	8	36.4%	0	0.0%
③社員の通常業務以外の業務	1	2.2%	4	18.2%	1	20.0%
④見学を中心に実施	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑥その他	2	4.3%	2	9.1%	2	40.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

【⑥その他の記述欄】

- ・複数部署を経験しており、内容が部署により異なるため。
- ・業務（イベント）の企画、運営と補助。
- ・法人・業界研究に対応する部署実習と現場実習の為、内容が2種類。
- ・幹部自衛官として実施する指揮幕僚活動の体験。
- ・新規事業の開発。
- ・学生たち自身が考えた店舗イベント企画を実施、その為の宣伝活動等。

●支給された各種手当の総額をお答えください。

	エクスターントップ ビジネス		エクスターントップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	39	84.8%	20	90.9%	2	40.0%
1円～4,999円	4	8.7%	1	4.5%	0	0.0%
5,000円～9,999円	1	2.2%	0	0.0%	2	40.0%
10,000円～19,999円	2	4.3%	1	4.5%	1	20.0%
20,000円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

●次年度の実習生受入れについてお伺いします。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①受入れる予定である	28	60.9%	13	59.1%	3	60.0%
②受入れない	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
③未定	17	37.0%	9	40.9%	2	40.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

## 2. 受講生について

●実習生の態度はいかがでしたか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①真剣に取り組んだ	43	93.5%	21	95.5%	5	100.0%
②ふつう	3	6.5%	1	4.5%	0	0.0%
③真剣さを感じられなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

【①の理由】

- ・どんな仕事も取り組んでいた。
- ・意欲的に参加してくれた。
- ・わからないことをそのままにせず、質問し解決していた。
- ・しっかり学んだ事は復習し次の実習内容につながる努力を感じた。
- ・自分から色々な課題にアンテナを張り、積極的に実習に取り組んでいただきました。
- ・土曜日に開催されたイベントにも進んで参加し、現場の職員からも非常に真面目に取り組んでいるという声があったため。
- ・責任感を持って最後まで真剣に取り組んでいただきました。
- ・マナーよくかつ前向きにプログラムを取り組んでいたため。
- ・各業務に積極的に取り組み、疑問点は職員に聞くなどしていた。
- ・遅刻・欠席なく、メモを取り、疑問点は質問するなど積極的に実習に参加していました。
- ・終始主体的な態度で実習に取組み、学ぼうという姿勢が顕著にみられた。
- ・明るく元気に取り組んでいたため。
- ・暑い日が続く中で一生懸命取り組んでいただきました。
- ・わからない事は質問をし、メモを取りながら取り組んでいた。
- ・怠らずにしっかりと業務に取り組んでいたため。
- ・臆することなく担当職員に質問していた。
- ・いろんなことを吸収して学ぼうとしていました。
- ・質問はしてくれているし、前向きな発言が多く、発表について自分で時間を作って取り組んでくれていたため。
- ・実習内容に対して真摯に取り組んでいただき、作成する資料等も期間内でしっかりと完成していただけたため。
- ・10日間の実習の中で、積極的に他のインターン生や社員と関わってくれたため。
- ・日誌など丁寧にご記入いただきました。
- ・何事にも前向きに行動されていました。
- ・誠実かつ積極的に業務に取り組んでいただけたので。
- ・弊社の課題に対して真摯に取り組んでくれたため。
- ・お二人ともリーダーシップを発揮されチームの牽引役でした。
- ・移動中などにも積極的に質問をしてくれました。理解が難しいところはさらに質問をしてくれ、こちらの納得度も高かったです。

●学生自身に成長があったと思われますか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	45	97.8%	20	90.9%	5	100.0%
②どちらともいえない	1	2.2%	2	9.1%	0	0.0%
③成長があったと思えない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

●前問で「①成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	エクスターントップ ビジネス		エクスターントップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	21	45.7%	6	27.3%	2	40.0%
②自主性・独創性の育成	19	41.3%	7	31.8%	3	60.0%
③キャリア形成	11	23.9%	7	31.8%	2	40.0%
④問題解決能力の向上	13	28.3%	8	36.4%	3	60.0%
⑤多様な価値観の認識	25	54.3%	10	45.5%	3	60.0%
⑥コミュニケーション能力の向上	31	67.4%	15	68.2%	4	80.0%
⑦プレゼンテーション能力の向上	15	32.6%	8	36.4%	4	80.0%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	15	32.6%	11	50.0%	3	60.0%
⑨その他	2	4.3%	1	4.5%	0	0.0%

【⑨他の記述欄】

- ・入試広報部の細かな業務について理解が深まった。
- ・自分の強みを自覚し、それを生かした活動ができた。
- ・初めは、状況を把握したり思った事を言葉や文章に表現することが苦手でしたが、少し上手になられたため。

### 3. 産学連携教育プログラムについて

●大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムに参加された一番の理由は何ですか。

	エクスターントップ ビジネス		エクスターントップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①コンソーシアム京都の加盟大学との連携強化	7	15.2%	4	18.2%	1	20.0%
②指導することにより社員の育成になるから	4	8.7%	1	4.5%	1	20.0%
③学生への自社PRのため	7	15.2%	4	18.2%	0	0.0%
④採用活動につなげたいから	6	13.0%	5	22.7%	0	0.0%
⑤学生から自社に対するアイデアを得るため	6	13.0%	1	4.5%	1	20.0%
⑥社会貢献	14	30.4%	5	22.7%	2	40.0%
⑦その他	2	4.3%	2	9.1%	0	0.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

【⑦他の記述欄】

- ・学生の就業意欲の向上に寄与し、職員の指導力の向上や職場の活性化に繋げるため。
- ・法人としてインターンや実習を積極的に受け入れているため。
- ・複数項目に当てはまる。
- ・例年のプログラムへの協力。

●実習生の受入れによる一番のメリットは何ですか。

	エクスターントップ ビジネス		エクスターントップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①大学との連携強化	6	13.0%	1	4.5%	0	0.0%
②職場活性化	4	8.7%	3	13.6%	0	0.0%
③指導する社員の成長	7	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
④自社のPR・広報・宣伝	4	8.7%	7	31.8%	1	20.0%
⑤優秀な学生との出会い	10	21.7%	5	22.7%	1	20.0%
⑥新たな企画開発	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑦社会貢献	10	21.7%	4	18.2%	2	40.0%
⑧その他	3	6.5%	2	9.1%	1	20.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

【⑧他の記述欄】

- ・繁忙期の業務の補助をしていただける。
- ・指導する職員及び実習生双方の成
- ・学生の就活に対するリアルな意見を聞くことができ、とても参考になること。
- ・若者向けの就職情報誌を発行しているため、現在の学生さんの価値観を知ることができる点がよい。
- ・社内の硬直した思考を若い力で打開すること。

●実習生の受け入れによる一番のデメリットは何ですか。

	エクスター・シップ ビジネス		エクスター・シップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①指導に時間・コストがかかる	26	56.5%	10	45.5%	3	60.0%
②事前の準備に時間・コストがかかる	10	21.7%	8	36.4%	1	20.0%
③安全への配慮に手間がかかる	1	2.2%	2	9.1%	0	0.0%
④情報漏えいが不安である	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑤その他	7	15.2%	2	9.1%	1	20.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

【⑤その他の記述欄】

- ・研修の内容決定や日程調整などに時間がかかる。
- ・実習日誌の毎日の記入にコストがかかる。毎日の記入は、社員に負担となるため、不要にしていただきたい。
- ・学生さんが得るもののがなかった際に申し訳ないこと。

●過去に受け入れた実習生が、貴社・貴団体の採用試験に参加したことはありますか。

	エクスター・シップ ビジネス		エクスター・シップ パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	21	45.7%	9	40.9%
②ない	13	28.3%	4	18.2%
③新卒採用を行っていない	7	15.2%	2	9.1%
④わからない	5	10.9%	7	31.8%
総計	46	100.0%	22	100.0%

●前問で「①ある」と答えた方にお伺いします。

過去に受け入れた学生を、貴社・貴団体において採用されたことがありますか。

	エクスター・シップ ビジネス		エクスター・シップ パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	9	50.0%	8	88.9%
②選考過程で採用には至らなかった	10	27.8%	0	0.0%
③不明	2	11.1%	1	11.1%
無回答	0	11.1%	0	0.0%
総計	21	100.0%	9	100.0%

●当財団以外から大学生の実習生を受け入れていますか。

	エクスター・シップ ビジネス		エクスター・シップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①はい	29	63.0%	21	95.5%	1	20.0%
②いいえ	17	37.0%	1	4.5%	4	80.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

●2025年度の産学連携教育プログラム全体について、どのくらい満足されていますか。

	エクスター・シップ ビジネス		エクスター・シップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に満足	15	32.6%	4	18.2%	1	20.0%
②かなり満足	16	34.8%	13	59.1%	0	0.0%
③やや満足	15	32.6%	3	13.6%	4	80.0%
④やや不満	0	0.0%	2	9.1%	0	0.0%
⑤かなり不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	46	100.0%	22	100.0%	5	100.0%

### III. ご意見・ご要望について（自由記述欄より抜粋）

本項目については、実習実施後調査書自由記述より抜粋したものを原文のまま掲載する。

ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

#### 《エクスターーンシップ（就業体験）コース 満足度の理由について》

製造（食品）	製造業務のみの実習でしたが一通り体験してもらうことができたため。
製造（食品）	実習生の専門と実習内容が全く異なるため。
製造（半導体・精密機器）	大学生ならではの発想でプレゼン発表をしていただき、社内にも学びがあったため。
マスコミ・広告・印刷・出版	学生の取組が素晴らしい、こちらもやりがいがありました。
マスコミ・広告・印刷・出版	今回弊社には1人が参加されましたが、1人よりも複数で学んだ方が、学生は成長すると思います。
情報・通信・IT	優秀で熱心に実習に取り組んでくださる学生様とマッチングしたため。
情報・通信・IT	学生のレベルが高く、課題発表でも本当に使える改善の提案があった。また当社に本当に興味を持ってくれた学生がいたので実際のPRにもなった。
情報・通信・IT	スキルがなかった。
金融・証券・保険	当方に特に負担となるオペレーションがないので
不動産・建築設計・建設業	参加学生の成長が感じられた
土業（法律・会計事務所）	現役の学生の方の仕事（特に会計事務所）に対する考え方方が理解できた。
ホテル・旅館	学生が思っていることすべてではないが、レポートにて確認ができた。数日ですが、直接話も聞いて良かった。
ホテル・旅館	プログラム自体は満足している。提出資料が少し多いと思う。
ホテル・旅館	学生の方々の実習後の発表がお互いにオンライン同士という事もあり、一体感に欠けるのが少し残念かな、と思いました。
観光・旅行	優秀な人材と出会いがあるから
観光・旅行	プログラムに参加される学生は総じて高い意識を有した学業優秀な人物が多いと思います。スタッフも教える意識に変化が加わるので管理職の視点では良い効果が得られています。
教育（学校・大学等）	事前に準備した内容は学生さんの業務の関わり方次第で、どのようにでも深められ、広げられ、発展できるのだと実感しました。
教育（学校・大学等）	実習生から学ぶこと多かったため。
教育（学校・大学等）	実習生には主体的な態度で実習に参加していただいたことと、実習を通して受入担当者もよい気づきや刺激を受けたため
教育（学校・大学等）	受入を行った実習生3名がそれぞれ特徴を發揮し、連携しながらプログラムを進めていたため。
教育（学校・大学等）	実習生が前向きで明るくコミュニケーション力も高かったため。
教育（学校・大学等）	取り組み自体は素晴らしいものであるが、受け入れ先の事務負担がやや大きい。
教育（学校・大学等）	意欲の高い学生が参加しており、学生の成長も見られ、こちらも刺激を受けました。実習そのものは大変有意義であると感じました。
医療・福祉	受け入れ人数が少なかった点がマイナス要因。実習生は積極的な学びの姿勢があり、満足度は高い。
医療・福祉	こちらとしては学びになったが、学生の方への事前準備がしっかりできていたかどうかわからぬい、受け入れに関して事業所として課題があるため
官公庁	感じることができたため。実習生に市民目線、学生目線の気づきや提案をいただけたため。
官公庁	参加学生が非常に意欲的で、本市への就職意欲も高かったため。
官公庁	知識の修得に積極的な学生に実習生として参加していただき、カリキュラムが円滑に実施できたうえ、実習生に当局の業務について関心を持ってもらえたため
官公庁	全体を通して貴財団のフォローによりスムーズに物事を進めることができたから。
官公庁	実習生が事前学習を含め、非常に前向きに実習に取り組んでいただけたため。
官公庁	最後まで参加された学生はしっかりと実習に取り組んでいただき、受入所属の満足度も高かったが、途中で辞退する学生も出てしまった。
官公庁	学生と接する機会を設けることができ、本市職員にとっても良い機会となったため。
官公庁	学生の意欲が高かったので、プログラム全体としてしっかりとコーディネイトされていると感じた。
官公庁	実習生がとても意欲的に取り組んでいたため。
官公庁	運営側としては、人手の確保になり、大変助かった。学生にとっては、仕事や就職について話す時間をたくさん確保したため、かなり満足と判断した。
官公庁	実習生が業務に関心を持って前向きに取り組んでくれたことに感謝しています。学生と予定が合わず、実習日のスケジュール調整が困難だった点が課題です。
官公庁	大学生に実務的な社会経験の場を提供できてよかったです。
官公庁	技術系人材のインターンシップ生を募集している中、技術系ではない人材を送り込むことについて、実習担当者が募集内容を理解して学生を選定しているのか疑問。技術系人材でなければ分からぬ実習内容も多くあり、大幅な実習内容の見直しが必要となった。今後はその点を踏まえて学生を選定していただきたい。
官公庁	今年度においては、採用活動に繋がる可能性が実習当初から乏しかったため。
非営利組織	交流できる機会があり、情報交流もできるので、こちらも学生にとっても良い経験になる。
非営利組織	学生が真面目に実習に取り組んでくれたから。

非営利組織	例年参加させていただいており、理念でもある、若者の教育施設であるという面で幾許か社会貢献できたかと考えております。
非営利組織	最後までやり遂げてくれたため。
非営利組織	通常2ヶ月以上でインターン生の受け入れをおこなっているため、やや短く就業体験性に多くの事業に関わってもらうことができなかつたため。
非営利組織	交流できる機会があり、情報交流もできるので、こちらも学生にとても良い経験になる
非営利組織	期待していた実習が十分できなかつた。学生の実力を活かせたか分からない。

#### 《エクスターンシップ（就業体験）コース プログラムの改善点について》

マスコミ・広告・印刷・出版	他の実習先と2回目のコラボをしたこと、かなりプログラムは充実した。同様のコラボが他社様でも増えれば。
情報・通信・IT	提出物がやや多いと感じました。また、提出物はデジタルを基本としてほしいです。
不動産・建築設計・建設業	事前学習がオンライン学習のため、一緒に参加する学生の一体感が以前に比べ少ないと感じました。
教育（学校・大学等）	全体の話ではないが、他の実習先が受入が難しそうだから本学に来られた旨の発言を耳にすることがあった。本学においては、正直に伝えていただきありがたく感じていたが他社や他団体の担当者が聞いた場合あまり快く思われないと感じる。万一、希望する受入先で無かったとしてもそのような発言は慎むべきである旨を事前にお伝えいただきたい。
教育（学校・大学等）	一般企業と学校法人は仕組みが大きく異なるため、学校で働くことを希望する学生を中心に受け入れたい。
教育（学校・大学等）	実習生を他大学生に限定したい場合について、実習部署情報の登録フォームに回答項目を追加する、もしくは受入条件・資格の項目に記入例として挙げる等していただきたい
教育（学校・大学等）	電子の協定書に統一していただきたいです。 電子と書面の2つがあることによって手間が増えます。
教育（学校・大学等）	今は過渡期かと思いますが電子署名と用紙の署名が大学によって種類が分かれ、上長と本学本部への連絡が少し複雑になっていて気を使いました。いつかは全て電子に統一されることを願います。
官公庁	人事担当部署としては、学生に行政実務を知つてもらう良い機会と考えていますが、実習受入課においては、業務繁忙や情報セキュリティ面から体験していただく業務を精査する必要があり、準備や実習中の指導など負担が大きいところです。実習期間を5日間など短く選択できればありがたいです。
官公庁	実習生の声で、事前レポートや事後レポートの枚数が多く、学生にとって負担になっているとの声があった。また、事前・事後学習が全てzoomであることで、学生同士の交流が生まれにくくなってしまっているとの声が多数あった。
官公庁	実習中の旅費等について、学生に負担が生じないような仕組みがあると、現地視察や遠方の実習地などを案内しやすい。
官公庁	実習日数を10日間の固定ではなく、6～10日間などにしてはどうか。
官公庁	実働10日以上とされている点について、より短期のカリキュラムも選択できれば、より多くの学生に実習生としてご参加いただけると考え
非営利組織	実習予定表の作成は通常のインターン生受け入れ時には行っておらず、プログラムを受け入れ時点で確定させることができ難いいため、提出は任意か無しにしていただけだとありがたいです。
非営利組織	人によると思いますが、現代の大学生は手紙に切手を貼るなどの社会文化に触れるチャンスが薄れているのでは、と感じました。殆どのことをスマホやネットで解決する印象もあります。実習先に手紙で礼状を書くなど、アナログな方たちの指導が必要に感じます。

#### 《プロジェクト企画実践コース 満足度の理由について》

・学生さんの将来のために熱き指導をされる運営の方々に感銘を受けております。
・積極的に取り組んでいただけましたが、忙しいので十分な時間が確保できなかつた。
・例年より企業の負担が増えたと思うため。
・毎年短期間で学生に効果をもたらすプログラム設計をしてくださっていますが、他企業さまにおかれでは、毎年ゴールが固定されているところもあり、何らかの変化が必要ではないかと思っております。

#### 《プロジェクト企画実践コース ご意見・ご要望について》

・このような素晴らしい企画はもっと多くの学生さんに参加いただきたいです。宣伝の強化は必要かと思います。
・夏場の実習を行うことに支障が出てきました、暑すぎるので実習内容を制限するか、企画自体を検討する必要がありそうです。当社の実習内容目線ですが、開催時期を変えていただかないと難しいところもあります。
・講習の時間にもう少し社会常識などに割く時間を増やしていただければ嬉しいです。
・来年度も9月に交流会を開催するのであれば、早めに日程をご教示いただけますと幸いです。本年度もありがとうございました。

## 第4章 受講生のアンケート結果から

今年度の産学連携教育プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「やや満足」を合わせると全体の86.9%であった。また、成長感については、95.1%が「成長があったと感じる」と回答した。

概して、受入先企業・団体における就業体験においては満足度も高く成長に繋がるとともに、多くの受講生にとって、就職することに対する意識の醸成や卒業までの目標を定める機会となつたことが確認できる。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

### I. アンケートの実施要項

#### 1. アンケート実施日

エクスターントシップ（就業体験）コース	2025年9月13日～10月1日
プロジェクト企画実践コース	2025年11月8日～11月15日

#### 2. 回答数

	回答数
エクスターントシップ（就業体験）コース／ビジネスクラス	75
エクスターントシップ（就業体験）コース／パブリッククラス	36
プロジェクト企画実践コース	11
総計	122

### II. アンケートの集計結果

#### 1. 実習について

●あなたが実習をおこなった受入先へのマッチングはいかがでしたか。

	エクスターントシップ（就業体験）コース				プロジェクト企画実践コース	
	ビジネス		パブリック			
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①大変満足	43	57.3%	26	72.2%	6	54.5%
②満足	28	37.3%	10	27.8%	4	36.4%
③どちらでもない	3	4.0%	0	0.0%	1	9.1%
④不満	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑤とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100%

●あなたが体験した実習内容は、主にどのようなものでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①基幹的業務の一部を体験	33	44.0%	15	41.7%
②補助的業務の一部を体験	22	29.3%	12	33.3%
③通常業務以外の業務	2	2.7%	4	11.1%
④見学を中心に実施	10	13.3%	4	11.1%
⑤座学を中心に実施（新任者研修に準ずる）	7	9.3%	1	2.8%
⑥その他	1	1.3%	0	0.0%
総計	75	100.0%	36	100.0%

#### 【その他の記述内容】

- ・1～5までを同じ日数かけて行った。

●実習の実働日数は何日間でしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
7日未満	0	0.0%	0	0.0%
7~9日	5	6.7%	1	2.8%
10日	65	86.7%	30	83.3%
11~15日	5	6.7%	5	13.9%
16~29日	0	0.0%	0	0.0%
30日以上	0	0.0%	0	0.0%
総計	75	100.0%	36	100.0%

●実習の実働日数についてはいかがでしたか。

エクスターンシップ（就業体験）コース

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
7日未満	0	0	0	0	0	0
7~9日	0	0	5	1	0	6
10日	3	26	61	5	0	95
11~15日	0	7	3	0	0	10
16日以上	0	0	0	0	0	0
総計	3	33	69	6	0	111

プロジェクト企画実践コース

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
6月~11月	0	4	6	1	0	11

## 2. 受講生自身の変化について

●あなた自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	70	93.3%	35	97.2%	11	100.0%
②どちらともいえない	5	6.7%	1	2.8%	0	0.0%
③成長があったと思えない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

●前問で「成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	32	42.7%	12	33.3%	6	54.5%
②自主性・独創性の育成	28	37.3%	14	38.9%	6	54.5%
③キャリア形成	36	48.0%	14	38.9%	4	36.4%
④問題解決能力の向上	19	25.3%	11	30.6%	7	63.6%
⑤多様な価値観の認識	40	53.3%	21	58.3%	6	54.5%
⑥コミュニケーション能力の向上	45	60.0%	21	58.3%	8	72.7%
⑦プレゼンテーション能力の向上	23	30.7%	6	16.7%	9	81.8%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	26	34.7%	9	25.0%	5	45.5%
⑨その他	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%

【その他の記述内容】

- ・不動産業界に関する知識が増えた。
- ・子どもの成長に伴う関わり方
- ・日常生活における意識の変化
- ・働く事の実感

●受入先への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	15	20.0%	12	33.3%	1	9.1%
②やや就職したい	41	54.7%	20	55.6%	2	18.2%
③あまり就職したくない	14	18.7%	3	8.3%	4	36.4%
④就職したくない	5	6.7%	1	2.8%	4	36.4%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

●受入先と同業種への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	22	29.3%	18	50.0%	0	0.0%
②やや就職したい	33	44.0%	14	38.9%	3	27.3%
③あまり就職したくない	14	18.7%	3	8.3%	3	27.3%
④就職したくない	6	8.0%	1	2.8%	5	45.5%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

●就職することに対する意識の変化について

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①強く思うようになった	31	41.3%	15	41.7%	2	18.2%
②少し思うようになった	22	29.3%	11	30.6%	2	18.2%
③それほど変化はなかった	18	24.0%	10	27.8%	7	63.6%
④少ししたくないと思うようになった	4	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑤強くしたくないと思うようになった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

●実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種のイメージはどうなりましたか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①良くなった	60	80.0%	30	83.3%	4	36.4%
②変わらない	14	18.7%	6	16.7%	6	54.5%
③悪くなった	1	1.3%	0	0.0%	1	9.1%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

●実習で何を得られましたか。

1) 働くということを実感できた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	1.3%	2	5.6%	0	0.0%
②あまり思わない	4	5.3%	2	5.6%	0	0.0%
③どちらでもない	4	5.3%	3	8.3%	4	36.4%
④思う	33	44.0%	14	38.9%	3	27.3%
⑤とてもそう思う	33	44.0%	15	41.7%	4	36.4%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

2) 実習先について知ることができた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	1.3%	2	5.6%	0	0.0%
②あまり思わない	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%
③どちらでもない	1	1.3%	1	2.8%	0	0.0%
④思う	25	33.3%	10	27.8%	4	36.4%
⑤とてもそう思う	48	64.0%	23	63.9%	6	54.5%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

3) 自分のスキルが向上した

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	1.3%	1	2.8%	0	0.0%
②あまり思わない	2	2.7%	1	2.8%	0	0.0%
③どちらでもない	13	17.3%	5	13.9%	0	0.0%
④思う	36	48.0%	17	47.2%	4	36.4%
⑤とてもそう思う	23	30.7%	12	33.3%	7	63.6%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

4) 自分の専門知識が向上した

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	1	2.8%	0	0.0%
②あまり思わない	11	14.7%	3	8.3%	1	9.1%
③どちらでもない	7	9.3%	6	16.7%	5	45.5%
④思う	40	53.3%	14	38.9%	4	36.4%
⑤とてもそう思う	17	22.7%	12	33.3%	1	9.1%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

5) 自分の力試しが出来た

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	2	2.7%	2	5.6%	0	0.0%
②あまり思わない	6	8.0%	1	2.8%	0	0.0%
③どちらでもない	14	18.7%	6	16.7%	0	0.0%
④思う	27	36.0%	9	25.0%	4	36.4%
⑤とてもそう思う	26	34.7%	18	50.0%	7	63.6%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

6) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	4	5.3%	2	5.6%	0	0.0%
②あまり思わない	9	12.0%	4	11.1%	2	18.2%
③どちらでもない	15	20.0%	6	16.7%	4	36.4%
④思う	33	44.0%	11	30.6%	3	27.3%
⑤とてもそう思う	14	18.7%	13	36.1%	2	18.2%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

7) 受入先に貢献できた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	1.3%	1	2.8%	0	0.0%
②あまり思わない	13	17.3%	2	5.6%	0	0.0%
③どちらでもない	18	24.0%	6	16.7%	0	0.0%
④思う	34	45.3%	16	44.4%	8	72.7%
⑤とてもそう思う	9	12.0%	11	30.6%	3	27.3%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

8) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	6	8.0%	2	5.6%	0	0.0%
②あまり思わない	5	6.7%	5	13.9%	1	9.1%
③どちらでもない	13	17.3%	6	16.7%	0	0.0%
④思う	31	41.3%	14	38.9%	5	45.5%
⑤とてもそう思う	20	26.7%	9	25.0%	5	45.5%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

●実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことは何ですか。

1) ビジネスマナーや話し方

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	12	16.0%	7	19.4%	1	9.1%
②やや不安だ	29	38.7%	13	36.1%	6	54.5%
③どちらでもない	13	17.3%	4	11.1%	1	9.1%
④あまり不安ではない	16	21.3%	9	25.0%	3	27.3%
⑤不安でない	5	6.7%	3	8.3%	0	0.0%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

2) 職場の人との人間関係

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	11	14.7%	6	16.7%	2	18.2%
②やや不安だ	22	29.3%	10	27.8%	4	36.4%
③どちらでもない	17	22.7%	6	16.7%	1	9.1%
④あまり不安ではない	18	24.0%	9	25.0%	3	27.3%
⑤不安でない	7	9.3%	5	13.9%	1	9.1%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

3) スキルや専門知識

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	13	17.3%	12	33.3%	2	18.2%
②やや不安だ	31	41.3%	10	27.8%	4	36.4%
③どちらでもない	19	25.3%	5	13.9%	2	18.2%
④あまり不安ではない	11	14.7%	8	22.2%	2	18.2%
⑤不安でない	1	1.3%	1	2.8%	1	9.1%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

4) 体調管理

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	6	8.0%	2	5.6%	1	9.1%
②やや不安だ	16	21.3%	8	22.2%	2	18.2%
③どちらでもない	16	21.3%	7	19.4%	2	18.2%
④あまり不安ではない	23	30.7%	10	27.8%	3	27.3%
⑤不安でない	14	18.7%	9	25.0%	3	27.3%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

3. 産学連携教育プログラムについて

●産学連携教育プログラム全体についてどの程度満足していますか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に不満	2	2.7%	2	5.6%	0	0.0%
②やや不満	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
③どちらでもない	6	8.0%	5	13.9%	0	0.0%
④やや満足	26	34.7%	16	44.4%	5	45.5%
⑤非常に満足	40	53.3%	13	36.1%	6	54.5%
総計	75	100.0%	36	100.0%	11	100.0%

### III. エクスターンシップ（就業体験）コース「実習経験交流会」について

本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。

ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

#### ● 発表を聞いての感想

- 色々な実習先があり、自分が体験することのなかった実習先のお話はとても興味深かったです。
- 他のゼミクラスの発表を闻けるのは貴重な体験だった。特に、自分とは違うコースの発表では、自分が体験した企業とはまた違った職種だったため新しい発見もあった。
- 今回行くことが出来なかった、さまざまな職種の経験談を聞くことで新しい発見があった。
- 学生にとって身近な就業先から普段中の様子を伺えないような場所でも体験することが出来ているので、そのような環境で業務を通して自分なりの学びを得られて充実していると感じました。
- 自分の実習先とは全く違う業種の話を聞けて、新しい発見や考えが深まりました。また発表の上手い人が多く、話し方や言葉遣いについてすごく勉強にもなりました。
- 官公庁や非営利団体だけでなく、民間の方々の発表も聞くことができ、この2つの違いや、どちらにも通じるものがあるという新たな発見をする事が出来た。
- クラスによって進め方や実習内容は全然違うのだなと思った。それと、もし自分のクラスと同じ業界で自分たち以外にもクラスがあったなら、遠い業界よりそこの発表も聞いてみたかった。
- 発表を聞いて、みなさんパワーポイントに簡潔にまとめて、話でわかりやすく考えを伝えていて、プレゼンが上手いと感じました。人前で話すのも文にまとめるのも苦手なので、発表の時はとても緊張しました。ゼミ、実習先によって実習内容、学んだことが違ったのが面白かったです。
- 違う業界の人たちのお話を聞くのはとても新鮮でした。良い業界研究になったと思います。
- 他業種の発表を聞くことで、将来つきたい仕事が明確に決まっていない自分の職業選択の参考になった。また、他のグループの発表の仕方や発表資料を見ることで、どういう方法をとれば人に伝わりやすいものになるのかについても学ぶことができた。
- 自分が参加していない企業から得られた学びを共有され、知見を広げることができた。
- 5クラス合同での発表会だったので、それだけ多くの企業の話を聞きました。短時間でここまで多くの企業の話題を聞くことは普段無いですし、実際に行った人からの、しかも同じ学生目線での報告だったので話が分かりやすく想像しやすかったです。
- 自分の知らない職種が多くあり、まだまだキャリア形成を広げられると感じた。
- ゼミごとや個人でまとめ方やスライドの作り方が違うようだったので統一した方が良いと思った。
- それぞれのクラスの目の付け所が違って興味深かったです。

#### ● 発表時間及び準備について

- 準備時間も発表時間もちょうどいいと感じました。
- ちょうどよかったです。内容をぎゅっと纏められた分、話しやすかったです。冗長にならなかったので皆さんに集中して話を聞いてもらえたかなと思います。
- しっかりコミュニケーションを取れたので、発表の準備はしっかり出来たし、社会人は決まった時間で作り上げないといけない事が多いから、練習にもなって良かったです。

- 準備時間はもう少し欲しかったが、結果的には良い資料を作れたと思うので良いと思う。発表時間も問題なかったと感じた。
- もう少し発表時間を長くして欲しいと思いました。より他クラスの経験について知りたかった。
- 人数が多かったため、ちょうど良く感じた。準備時間が短い場面もあったが、いい練習になった。
- 限られた発表時間に、内容を収めることができすごく難しかったですが、ちょうどいい発表時間、準備時間だったなと思います。
- 発表時間および準備時間は短く感じました。もう少し時間があれば、伝えたいことを伝えられたかもしれません。
- どちらも短く感じたが、準備時間については限られた時間で用意する経験として良いと思った。発表時間については、もう少し時間があった方がお互いの発表をより理解できると感じた。
- 足りなかつたが、社会に出ると時間が足りないのは日常茶飯事なので、学ぶ事ができてよかったです。
- 各実習先で数分の発表だったため特に伝えたい内容を発表されていたので非常に聞きやすかったです。
- 発表時間は程よいと感じたが、準備時間は短いと感じた。
- 少し短いように感じたが、短い時間の中でもゼミのメンバーと話し合いながら進めることができたと思う。
- 発表時間は短かったから、急いで早口になったが、その分いろいろなゼミクラスの発表を多く聞けてよかったです。
- 準備時間がかなりタイトであった。発表時間もなかなかにタイトであった。

### ● その他の意見

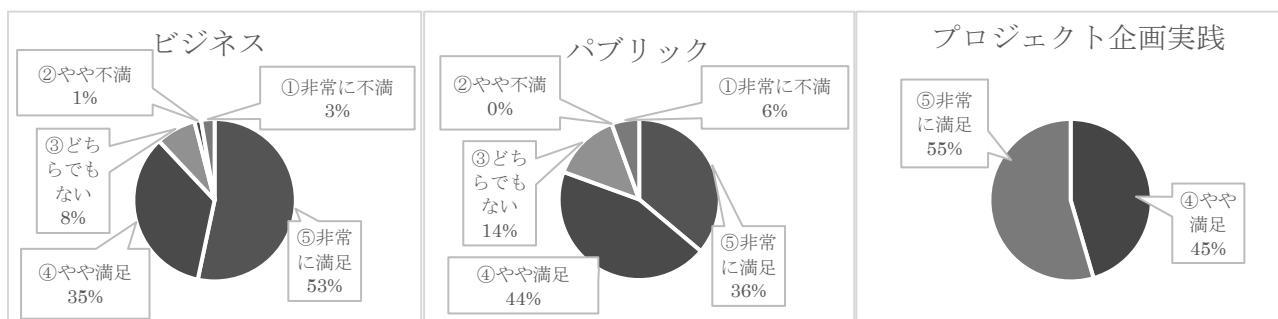
- 受け入れ担当者からコメントをいただけたことが力となった
- 発表後、何個かのゼミが終わってから他のゼミからの感想・質問を求めていましたが、一つのゼミが終わった後、実習先の企業や役所の方々と同じタイミングで設けるべきではないかと感じました。

## IV. 意見・感想について

本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。

ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

### ●全体を通して



### 《エクスターンシップ（就業体験）コース》

- 自分自身の成長を感じられた。実習前に自分を見直して目標を立てていくことで、実習後振り返ると自分の変化を感じ取ることができた。
- オンラインは便利な反面、最後の交流会などは対面の方がより質問などがしやすいように感じた。実習先の社員さん達や同じ実習生など、非常に周りの人に恵まれたように思う。初めての実習だったので、サポートが手厚くてありがたかった。
- 「自分はどう思うか」ということを考える機会が多く、それを自分の言葉で伝えるという難しさをすごく感じました。自分の考えを自分の言葉で伝えることが、私にとってはすごく苦手だったので不安な気持ちがあったのですが、このプログラムを通して何度も挑戦できたので、自分の成長を感じられました。
- 京都内の連携が想像以上にあることを知り、コンソーシアム自体のインターンや、他の業種など、もっとたくさんのことを探りたいと感じた。
- 自分自身の成長につながるとしてもいい機会になったと感じた。また、自分の自信につながる経験ができたと思う。
- 産学連携プログラムは、実習だけでなく、事前・事後学習があるので働くだけで終わらせない工夫がされているので良いと思いました。そこで、経験を振り返り、立てた予想がどうであったかなど考えさせられることが多いし、学びがたくさんあるのが良い点で、就職活動の軸を決める等学びを活かせる部分が多いと思いました。
- 私はこのプログラム全体を通して、実習としての学びだけでなく、人間性として成長することができました。ゼミクラスの方の多様な意見や実習先での実習生の人間性を目にし、自分自身にはない考えを発見することができました。また、このプログラムでは、グループワークも多く、社会性やコミュニケーション能力などを吸収することができたため、今後の大学生活にも活かしていきたいです。
- 実習で自分が体験したインターン先の企業や、他の企業の業務内容を知ることができたのでよかったです。
- 主体性、行動力、発信力が身についたと感じた。今後の自分にとっても良い経験になると思う。

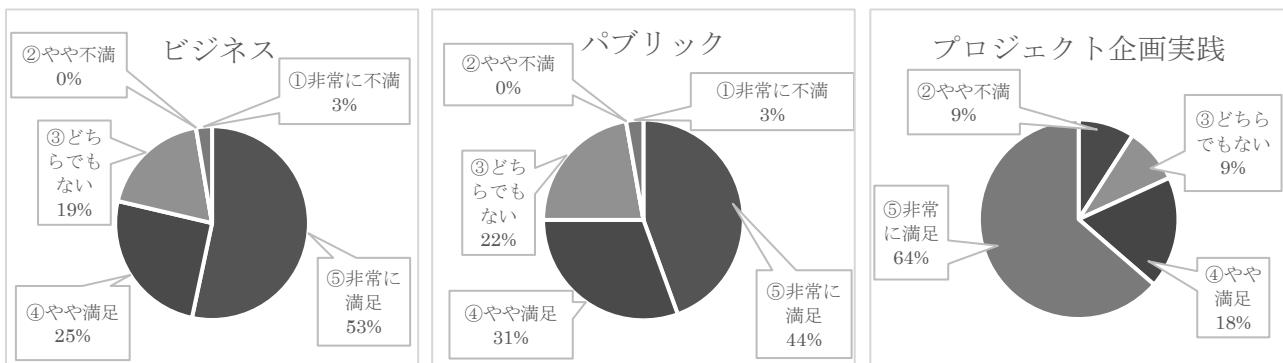
### 《プロジェクト企画実践コース》

- 考え方が多面的になりました。なかなか体験できないことを体験できたので自信に繋がった場面もありました。
- 大変ではありましたが、とても有意義な時間になったと感じています。
- 非常に満足です。
- 想像以上の大変さで心配な時もあったが、事務局方、コーディネーターの先生方のご協力を頂き、終えることができた。また自己の成長も感じられ、大変満足している。
- 自分のコミュニケーションがあがったことは自信につながったのでよかったです。
- 学校では学べないことを多く学び、自分と向き合う時間が多くのあったから。
- 次の自分の行動をより明確にするための機会となり、私の期待に沿うものだった。
- 最後の講義だとほぼ話し合いがメインだったので、できたら話し合うときのポイントだったり少し

授業っぽいことがあれば良かったかなと思いました。

- とても良いプログラムだと思います。達成感がすごいです。また、意識の高い学生さんと出会うことができるで、それもとても刺激になりました。ただ、プロジェクトを超えた交流がほとんどなかつたので、これをきっかけに交流の輪が広がるよう、授業内で工夫されるとより良いかなと思いました。
- 様々な事情があるかと思いますが、交流会の日程に関しては、もう少し早めのアナウンスを頂けるとよかったです。
- プロジェクトを通して成長を実感できたから。またサポート体制が整っているため。
- 自分の力不足だったり、強みを実感できたからです。改善していく様に頑張ろうと思いました。
- 他ではできない貴重な体験ができました。
- 自身の成長できる機会となつた。
- 各講義の進捗がギリギリだった印象があり、グループの話し合いが途中で切れてしまうことがよくありました。時間にもう少し余裕があればより濃いものができたのになと思います。
- 総合的に自己の成長を感じることができたから。  
また長期間のプロジェクトだったため、自己の成長の変容が捉えやすかった。
- プロジェクトを通して自分に自信が、ついたし自分になりたい職業がきつたから。
- 学生のためにコーディネーターの先生とともに考えてくれたから。
- 受け入れ先への期待とのズレは少しあつたが、产学連携教育プログラム全体としては満足であった。
- 成長できる時間を過ごせたから。またプログラムの支援も沢山してくれて、とてもありがたかったです。
- 長期の活動を通して、課題解決への自分の姿勢を見つめ直すことができたから。

### ●事務局について



### 《エクスターンシップ（就業体験）コース》

- 何事もご相談しようと思える安心感をくださりありがとうございました。
- 電話対応が迅速で優しい説明をしてくださいました。ありがとうございました。
- 問題や分からぬところがあった時に、電話やメールしたら迅速に対応してくれてありがとうございました。
- 適切な対応を取られていて、プログラムに参加する身としては安心だった。
- 言葉遣いや態度がとても丁寧で感動した。これから就職する学生の良い手本となられていると感じ

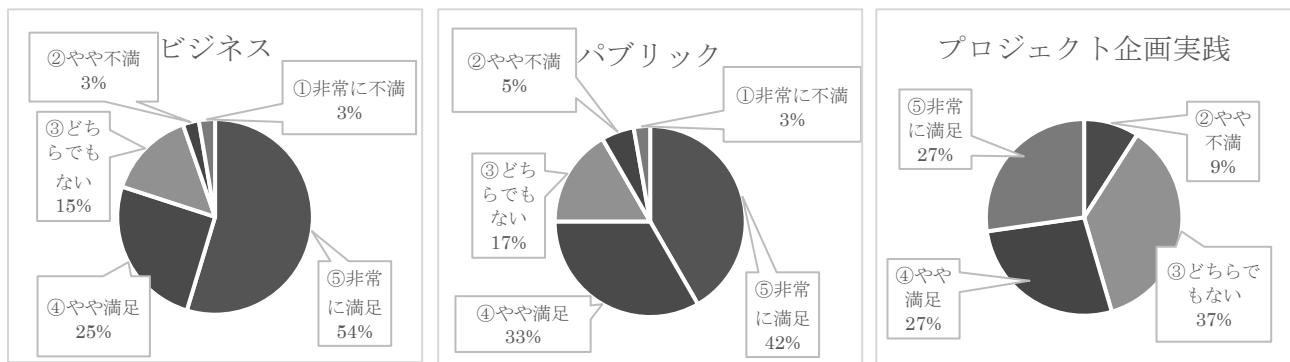
た。

- 講義の前日メールや接続先が案内されたため、安心して講義を受けられた。
- 事務局の方々に何度もお問い合わせさせていただくことがあり、ご迷惑であったのにもかかわらず、非常に丁寧に対応していただきました。お世話になり、本当にありがとうございました。

### 《プロジェクト企画実践コース》

- チラシ作成などでも丁寧に対応していただき助かりました。
- このプログラムに参加するかどうかというところからかなり親身に相談に乗っていただきました。事務局に実習先を紹介していただいたからこそ参加できたので、とても感謝しております。また、質問や相談をメールでしてもすぐに返信していただき、迅速な対応にとても助かりました。ありがとうございました。
- 丁寧に対応していただき、特に不安がありませんでした。お支えいただき、大変感謝しています。
- 無事プロジェクトを完遂したのは、講義等の様々な手配をしてくださった、事務局の皆様のおかげです。ありがとうございました。

### ●コーディネーターについて



### 《エクスターンシップ（就業体験）コース》

- 先生の堂々たる授業内容や人間性に嬉しさを覚え出来て良かったと思いました。
- 優しく穏やかな先生で、始終リラックスして取り組めました。
- フィードバックを丁寧にくだり、私の性格も理解してくださっていました。先生がコーディネーターで安心できました！
- わかりやすく指導してくださり、具体的な改善案を提示してくださったので、自分のやるべきことを明確にしやすかったです。
- 私たちの意見を尊重してくださりつつも、大学職員としての視点を多くの考え方をご教授いただいた。
- 事前レポートの添削や質問のメールなどのレスポンスが迅速かつ丁寧ありがとうございました。
- インターンのことだけでなく、先生自身の会社での経験なども話してくださり、とても学びが多かったです。また、自分の発言や発表に対して必ずフィードバックしてくださることが自分自身の反省や自信につながり、自分の成長につながっていると感じました。

- ユーディネーターの方が講義を効率よく進めていただき、事前学習でのレポート作成において丁寧に添削していただきいたので、充実した時間を過ごすことができました。また、中間指導において、お忙しい中、お越しいただき誠にありがとうございました。
- 自分の拙い話を聞いて、それを広げて自分が伝えたいことを周りに伝えられるように誘導してもらえたので安心してこの実習に取り組めました。
- 生徒1人1人に対して、的確なコメント、指導を行ってくださりありがとうございました。
- すごく信頼感があり、最初から最後まで頼もしかった。事務的なサポートから心理的なサポートまで手厚かったです。
- わからないことは、グループで共有を、初めに推進してくださったことで、わからないことを臆さず聞くことができました。

#### 《プロジェクト企画実践コース》

- 学生とは違う目線から意見をおっしゃってくださっていたので、多面的に物事を考えられるきっかけになったと思います。また、気軽にお話しできたので楽しく実習できました。
- 活動についていつも考えさせられる問い合わせを投げかけてくださり、都度方向修正をしていただきたなと振り返ると思います。実習生の意見も十分に尊重してくださり、時には活動にもご同行頂いて見守っていただきました。ありがとうございました。
- 的確なご指導のおかげで、円滑にプロジェクトが進みました。
- 温かいご指導、誠にありがとうございました。

## 第5章 今後の課題

### 1 産学連携教育プログラムをめぐる状況

財団による産学連携教育プログラムは、1998年度から26年にわたり大学と連携し、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育プログラムとしてインターンシップの充実を図ってきた。

近年、インターンシップの社会的普及の中で、全国の大学、企業・団体がそれぞれ独自にインターンシップ・プログラムを展開し、企業・団体による採用を目的としたインターンシップの増加が顕著となっている。そうした中、一般社団法人日本経済団体連合会と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」からの提言を受けて、文部科学省、厚生労働省、経済産業省は「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」を2022年6月に一部改正した。この基本的考え方では、「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」が四つの類型に整理され、要件を満たすインターンシップに限り、今年度以降に企業団体が学生情報を広報活動・採用選考活動に使用できることとされた。これは大学等におけるキャリア形成の取り組みの位置づけを変えるものではないが、産業界と大学等が積極的に関与し、推進していくことを求める内容となっている。

財団が実施する産学連携教育プログラムは、基本理念に掲げる通り、キャリア教育の一環としての産官学地域連携による教育プログラムであり、採用に直結するものとは異なり、「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を教育目標としている。4つの類型においては、タイプ2に該当する「キャリア教育」として実施しており、2024年度から財団が実施する「インターンシップ・プログラム」の名称を「産学連携教育プログラム」へと変更した。インターンシップの位置づけが多様化している中であるからこそ、本プログラムの位置づけと目標を学生、受入先企業・団体、大学に対してより一層、明確に発信していく必要がある。

### 2 財団における今後に向けた取組

産学連携教育プログラムは、大学と企業・団体の連携により、就業体験の域を超えた、実践から「働く」を考えるキャリア教育プログラムとして、大学間連携のキャリア形成プログラムとしては全国でも最大規模の取り組みとなっている。

財団が進める中期計画第6ステージプラン（2024年度～2028年度）において、本プログラムが目指すものとして、コロナ禍以降続く社会変化に対応し、学生の学びと成長、企業・団体の活性化に寄与する教育プログラムを推進する。具体的には次の3点について取り組む。

1つめは、オンラインツールのメリットを活かし、実習生を指導・サポートするコーディネーターとの緊密な連携を通して、本プログラムにおける双方向の教育実践の取組のさらなる深化を目指していく。

2つめに、京都府・京都市と連携のうえ、受入先としての登録を促進する方策を検討するなど、新規の受入先登録を広く呼び掛ける。

3つめには、受入先がプログラムに期待し設定する人材育成、組織の活性化、社会貢献などの目標・課題について、学生を送り出す大学との間で共有するとともに、企業・団体と大学が様々な場面で結びつきが強まることを企図して、「受入先実習プログラム研究会」など、交流促進の機会を提供できるよう進めていく。

## 資料1. 出願者・受講者数と受入企業・団体数について

### 1) コース別 出願者数

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
エクスター・シップ/ビジネス	183	107	93	97	51	52.6%
エクスター・シップ/パブリック		48	42	29	23	79.3%
プロジェクト企画実践	15	14	12	12	5	41.7%
合計	198	169	147	138	79	57.2%

### 2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	31	15.7%	29	17.2%	93.5%
2年次(回生)	41	20.7%	34	20.1%	82.9%
3年次(回生)	120	60.6%	100	59.2%	83.3%
4年次(回生)	5	2.5%	5	3.0%	100.0%
5年次以上(回生)	0	0.0%	0	0.0%	-
大学院生	1	0.5%	1	0.6%	100.0%
合計	198	100.0%	169	100.0%	85.4%

### 3) 男女別 出願者数と受講率

	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	57	28.8%	45	26.6%	78.9%
女性	141	71.2%	124	73.4%	87.9%
合計	198	100.0%	169	100.0%	85.4%

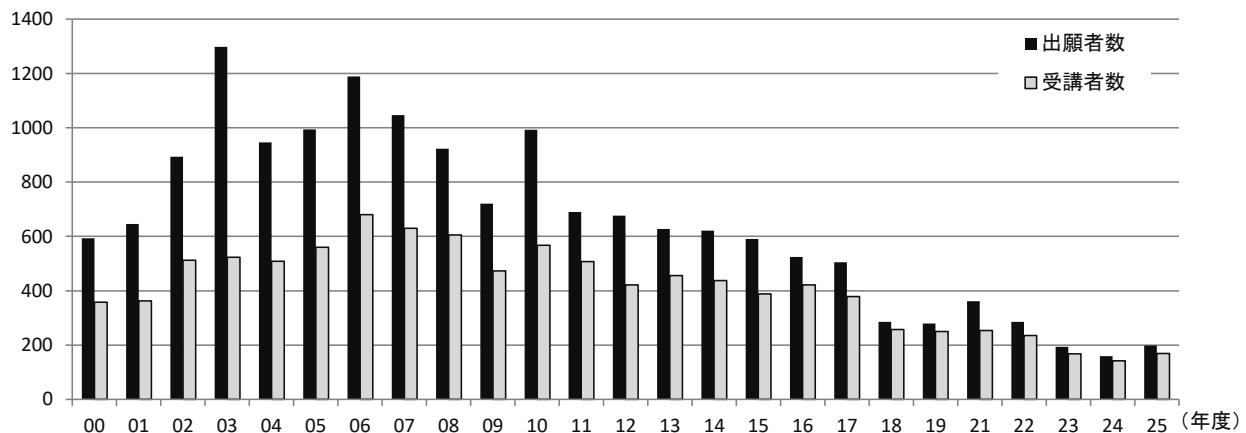
### 4) 大学別 出願者数

	大学名	出願者数		大学名	出願者数		
		実習許可者数			実習許可者数		
加盟大学	京都大学	0	0	加盟大学	京都文教大学	25	23
	京都教育大学	0	0		京都文教短期大学	0	0
	京都工芸繊維大学	0	0		京都薬科大学	0	0
	京都市立芸術大学	0	0		嵯峨美術大学	1	1
	京都府立大学	2	2		嵯峨美術短期大学	0	0
	京都府立医科大学	0	0		種智院大学	0	0
	福知山公立大学	1	1		成安造形大学	2	2
	池坊短期大学	0	0		同志社大学	35	33
	大谷大学	7	5		同志社女子大学	4	3
	京都医療科学大学	0	0		花園大学	12	11
	京都外国語大学	5	5		佛教大学	4	3
	京都外国語短期大学	0	0		平安女学院大学	0	0
	京都華頂大学	0	0		明治国際医療大学	0	0
	華頂短期大学	0	0		立命館大学	11	9
	京都看護大学	0	0		龍谷大学	43	32
	京都経済短期大学	0	0		龍谷大学短期大学部	0	0
	京都芸術大学	0	0		大阪医科大学	0	0
	京都光華女子大学	4	4		京都情報大学院大学	0	0
	京都光華女子大学短期大学部	0	0		放送大学 京都学習センター	1	1
	京都産業大学※大学院生含む	11	9	非加盟大学	関西大学	1	1
	京都女子大学	20	18		滋賀大学	1	0
	京都精華大学	1	1	出願者総数		198	169
	京都西山短期大学	0	0				
	京都先端科学大学	0	0				
	京都橋大学	3	3				
	京都ノートルダム女子大学	4	2				
	京都美術工芸大学	0	0				

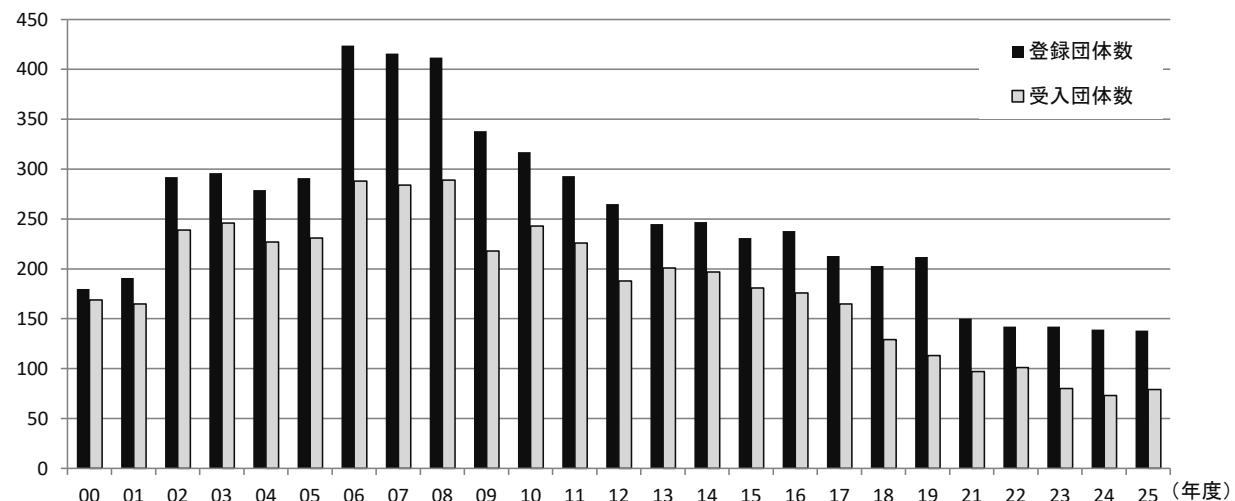
## 資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター（CO）数の推移

年度	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	21	22	23	24	25
出願者数	593	646	893	1298	946	994	1189	1047	923	721	993	690	676	627	621	591	524	505	286	279	362	285	193	159	198
受講者数	358	363	512	523	509	560	680	630	605	473	567	507	422	456	437	388	421	378	257	250	253	235	168	142	169
登録団体数	180	191	292	296	279	291	424	416	412	338	317	293	265	245	247	231	238	213	203	212	150	142	142	139	138
受入団体数	169	165	239	246	227	231	288	284	289	218	243	226	188	201	197	181	176	165	129	113	97	101	80	73	79
CO人数	13	16	27	26	30	32	39	40	43	37	37	38	37	35	32	31	33	33	24	24	22	24	24	24	21

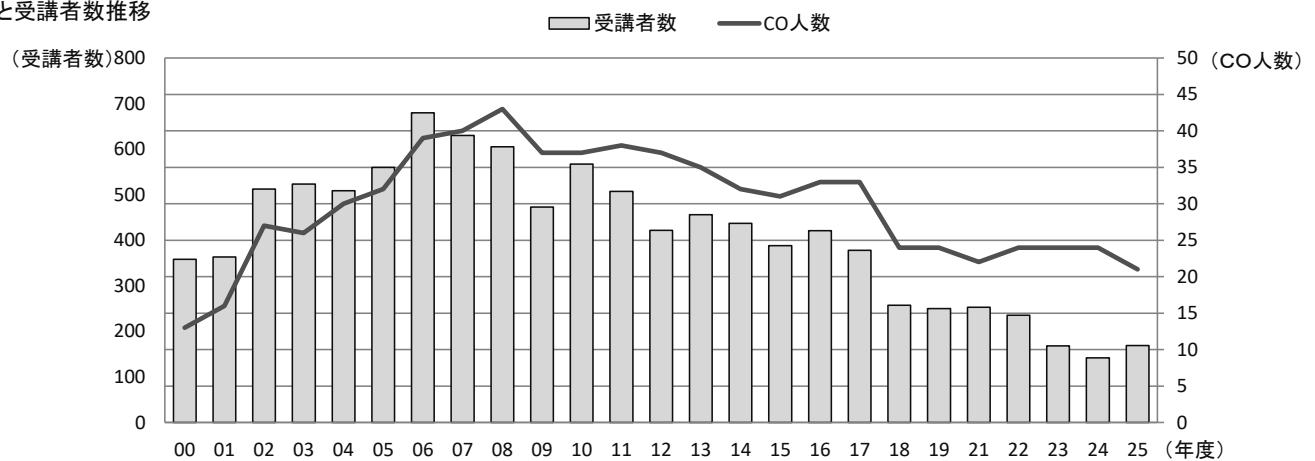
出願者数の推移



参加団体数推移



CO数と受講者数推移



### 資料3. 受入先登録企業・団体一覧

エクスターーンシップ(就業体験)コース／ビジネスクラス

#### ■製造(食品)

株式会社石田老舗  
亀屋良長株式会社  
丹波ワイン株式会社  
株式会社西利

#### ■商社・卸売

株式会社佐野  
株式会社ヒトミ  
富士フィルムビジネスイノベーション  
ジャパン株式会社京都支社

#### ■ホテル・旅館

RRH京都オペレーションズ合同会社  
リーガロイヤルホテル京都  
ウェスティン都ホテル京都  
株式会社近鉄・都ホテルズ  
都ホテル京都八条

#### ■製造(電気機械設備)

株式会社カシフジ  
寺崎電気産業株式会社  
日工電子工業株式会社  
由利ロール株式会社  
和晃技研株式会社

#### ■小売・販売・専門店

株式会社 京滋マツダ  
生活協同組合コープしが  
株式会社ハートフレンド  
(総合食品スーパー「フレスコ」)  
株式会社花工房

#### 株式会社国華荘 びわ湖花街道

株式会社西武・プリンスホテルズ  
ワールドワイド ザ・プリンス京都宝ヶ池  
里湯昔話 雄山荘  
株式会社西武・プリンスホテルズ  
ワールドワイド びわ湖大津プリンスホテル  
柊家株式会社

#### ■製造(半導体・精密機器)

株式会社魁半導体  
株式会社積進  
洛陽化成株式会社

#### ■金融・証券・保険

株式会社エスアールエム  
SMBC日興証券株式会社  
西村証券株式会社

#### ■観光・旅行

株式会社アルコーコーポレーション  
オーパルオプテックス株式会社  
京都新聞企画事業株式会社  
(京都新聞旅行センター)

#### ■製造(その他)

株式会社ShinSei  
株式会社セイワ工業  
株式会社箭木木工所

#### ■不動産・建築設計

株式会社アイビ建築  
有限会社Lプランズ  
京都駅ビル開発株式会社  
株式会社空間デザイン  
株式会社クレバー  
恵星建設株式会社  
有限会社一級建築士事務所 ターボ設計  
株式会社長栄  
東邦電気産業株式会社  
株式会社莫設計同人  
株式会社フラットエージェンシー  
株式会社ローバー都市建築事務所

#### ■エンタテイメント

ビーイングホールディングス株式会社

#### ■マスコミ・広告・印刷・出版

アトム株式会社  
株式会社京都通信社  
株式会社PHP研究所  
株式会社文化時報社  
宮川印刷株式会社  
株式会社ユニオン・エー  
株式会社らくたび

#### ■レジャー・アミューズメント

株式会社志摩スペイン村

#### ■情報・通信・IT

協和テクノロジズ株式会社  
株式会社クラックスシステム  
株式会社KCNなんたん  
大和電設工業株式会社  
株式会社ディレクターズ・ユニバ

#### ■士業(法律・会計事務所)

弁理士法人京都国際特許事務所  
税理士法人京都ビジコン  
こもだ法律事務所  
弁護士法人中村利雄法律事務所

#### ■医療・福祉

社会福祉法人京都福祉サービス協会  
社会福祉法人十条龍谷会

#### 社会福祉法人清和園

京都市久世特別養護老人ホーム

医療法人社団 千春会

社会福祉法人同胞会 DOHOグループ

社会福祉法人 洛西福祉会

#### ■コンサルティング・調査・研究

株式会社地域未来研究所  
株式会社Hibana  
株式会社ユメコム

#### ■人材ビジネス

株式会社OVO

エクスターントップ(就業体験)コース／ビジネスクラス	エクスターントップ(就業体験)コース／パブリッククラス	プロジェクト企画実践コース
■安全・メンテナンス・清掃	■官公庁	特定非営利活動法人 明日の京都文化遺産プラットフォーム
株式会社アイアム	綾部市役所	株式会社インサイトハウス
株式会社ワタナベ美装	宇治市役所	一般社団法人Impact Hub Kyoto
■運輸・物流	近江八幡市	株式会社FPコンサルティング
株式会社サカイ引越センター	亀岡市役所	株式会社大槻シール印刷
株式会社塚腰運送(Tsukagoshiグループ)	京田辺市	関西巻取箔工業株式会社(KANMAKI)
■教育(学校・大学等)	京都市	一般社団法人 京都ソーシャルビジネス・ネットワーク (Kyoto-SBN)
大谷大学	京都府庁	つねよし百貨店
京都外国語大学 京都外国語短期大学	草津市役所	株式会社ピューズ
京都光華女子大学 京都光華女子大学短期大学部	厚生労働省 京都労働局労働基準部監督課	株式会社MOTHERS
京都産業大学	滋賀県庁	株式会社ユニオン・エー
京都女子大学	摂津市	株式会社ワイングロッサリー
京都精華大学	長岡京市役所	
京都国際マンガミュージアム	東近江市役所	
京都文教大学	彦根市	
社会福祉法人熊千代会 こぐま上野保育園	防衛省 自衛隊京都地方協力本部	
公益財団法人大学コンソーシアム京都	宮津市役所	
同志社大学	守山市役所	
学校法人立命館(立命館大学)	野洲市	
学校法人龍谷大学	栗東市役所	
■その他		■非営利組織
公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団		一般財団法人大阪教育文化振興財団
クリアウォーターOSAKA株式会社		特定非営利活動法人京都藝術交流協会
日本エンジニアリング ソリューションズ株式会社		公益財団法人京都市国際交流協会
公益財団法人びわ湖芸術文化財団		京都市野外活動施設 花背山の家
		公益財団法人京都市ユースサービス協会
		一般財団法人京都ユースホステル協会
		公益財団法人公害地域再生センター (あおぞら財団)
		特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ おふいすパワーアップ
		特定非営利活動法人とよなか市民環境会議 アジェンダ21
		認定NPO法人びわこ豊穣の郷

## 資料4. プロジェクト企画実践コース講義概要

全体の流れ	回数	日程	時間	講義名	講義単位	内容	実施場所		
プロジェクトの導入	第1講	2025/6/19 (木)	18:30~19:00 (30)	オリエンテーション	全受講生	プログラムの概要説明、諸注意、事務連絡を行い、担当コーディネーターの紹介。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
			19:00~19:30 (30)	プログラムの歴史・趣旨・意義		プログラムの歴史・趣旨・意義を理解する。			
	第2講		19:40~21:10 (90)	受入先と実習生の相互理解	各プロジェクト	受入先の事業目的、課題、担当者を受講生が理解し、参加目的や経歴を含めて受講生のことを受入先が理解する。			
受入先事前訪問期間: 6月20日(金)~7月16日(水)の間に、受入先でまたはオンラインでミーティングを2回以上行い、受入先の特徴とその外部環境について理解を深めておく。									
プロジェクトの形成	第3講	2025/6/26 (木)	18:30~20:00 (90)	コミュニケーションと報告のスキル	全受講生	プロジェクトを成功に導くためのコミュニケーションと報告のスキルを学ぶ。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第4講		20:10~21:10 (60)	プロジェクトマネジメント概論	全受講生	一般的なプロジェクト概念の基礎を学ぶ。			
	第5講	2025/7/3 (木)	18:30~19:30 (60)	各プロジェクトの素案作成① —活動のアイデア出し—	全受講生	アイデア出しの手法を講義と実践を通じて学び、各プロジェクトの活動内容の立案に活用する。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第6講		19:40~21:10 (90)	各プロジェクトの素案作成② —目的・目標・活動内容の検討—	各プロジェクト	各受入先の実情に応じた目的・目標・活動内容などを検討し、ワークシート①、②の当初版(プロジェクト素案)を作成する。			
	第7講	2025/7/10 (木)	18:30~19:30 (60)	プロジェクトの進捗管理とは	全受講生	一般的なプロジェクト進捗管理の手法を学ぶ。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第8講		19:40~21:10 (90)	活動計画策定	各プロジェクト	各プロジェクトの活動計画当初版を策定し、プロジェクト素案(ワークシート①、②)と合わせて担当教員に説明、フィードバックを行う。			
	第9講	2025/7/17 (木)	18:30~19:30 (60)	プロジェクト素案のブラッシュアップ① —ワークシートの作成—	各プロジェクト	各プロジェクトの背景を検証して各プロジェクト素案をブラッシュアップし、ワークシートと活動計画を修正する。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第10講		19:40~21:10 (90)	プロジェクト素案のブラッシュアップ② —共有とフィードバック—	全受講生	各プロジェクト素案と活動計画の発表と意見交換を行い、その内容をワークシート・活動計画に反映させ、夏季の活動内容を設定する。			
	予備日	2025/7/24 (木)	18:30~19:30 (60)	※夏期休暇前に講義休止が発生した場合の予備日。					
	予備日		19:40~21:10 (90)						
夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。									
プロジェクトの形成	第11講	2025/9/4 (木)	16:50~18:20 (90)	各プロジェクトの現状把握と課題整理	各プロジェクト	これまでの活動を振り返り各プロジェクトの現状を把握し、ワークシート内容の検証を通して課題を整理する。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第12講		18:30~19:30 (60)	各プロジェクトの進捗・課題報告	全受講生	各プロジェクトの進捗状況及び課題の全体発表と意見交換を行う。			
	第13講		19:40~21:10 (90)	各プロジェクトの実施計画の検討・確定	各プロジェクト	各プロジェクトでタスク、役割分担、スケジュールを確認してガントチャート(ワークシート③)を作成し、担当教員等に対して報告、アドバイスをもとにワークシートを①~③を完成させる。			
夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを実行しつつ、1) WS①~③の完成、2) プрезентーションに関するオンデマンド講義の視聴、3) 第14講でのプレゼンテーション準備を行います。									
プロジェクトの振り返り	第14講	2025/10/2 (木)	18:30~20:00 (90)	中間プレゼンテーション	全受講生	各プロジェクトの内容・進捗状況をプレゼンテーションし、実践を通じて「プレゼンテーション」の本質を理解する。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第15講		20:10~21:10 (60)	中間プレゼンテーションの振り返りとスケジュール確認	各プロジェクト	第14講のプレゼンテーションの振り返りとプロジェクトのスケジュール確認を行う。			
	第16講	2025/10/9 (木)	18:30~19:30 (60)	プロジェクトの評価について	全受講生	ワークシート④を参照して、一般的なプロジェクトの評価手法を学ぶ。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第17講		19:40~21:10 (90)	プロジェクトのアウトプット・アウトカムの確認と評価	各プロジェクト	各プロジェクトの目的・目標・アウトプット・アウトカムの確認と検証、第16講の内容をふまえた各プロジェクトの暫定的評価をワークシート④を使い行う。			
	第18講	2025/10/23 (木)	18:30~19:30 (60)	プレゼンテーション準備	全受講生	ファイナルプレゼンテーションの目的・内容について確認する。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第19講		19:40~21:10 (90)	プレゼンテーション準備	各プロジェクト	各プロジェクトのファイナルプレゼンテーションにむけた準備を行う。			
	予備日	2025/10/30 (木)	18:30~19:30 (60)	※夏期休暇後に講義休止が発生した場合の予備日。					
	予備日		19:40~21:10 (90)						
プロジェクト報告・評価	第20講	2025/11/8 (土)	10:40~12:40 (120)	プログラム受講による自己の変化を振り返る	全受講生	プログラム受講を通じた自己の変化を振り返る。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施		
	第21講		13:30~15:00 (90)	ファイナルプレゼンテーション修了式		約5ヶ月にわたるプログラムの総括として、プロジェクトごとに活動報告を含むプレゼンテーションを行う。 全体で、各プロジェクトの到達点について相互評価を行い、今後の学生生活の目標を明らかにする。			
	第22講		15:10~16:10 (60)						
	第23講		16:20~17:50 (90)						

●講義は感染症の拡大状況他、その他の社会状況によりキャンパスプラザ京都(対面)またはオンライン(ZOOM)にて実施します。

●学習レポートおよびプロジェクト報告書 提出期間: 11月8日(土)~13日(木) ※最終日の締切は 12:00 です。(時間厳守)

## 資料5. プロジェクト企画実践コース プロジェクト別コーディネーター一覧

受入先	プロジェクト概要	受講者数	コーディネーター
株式会社 インサイトハウス	【きょうのやまなさんプロジェクト】 積極的に関わりながら参加すればするほど、得るもののが大きくなるのが「きょうのやまなさんプロジェクト」です。やる気次第で何でもできる限り挑戦できるようにサポートいたします。	2	平賀 緑 京都橘大学 経済学部
株式会社 ワイングロッサー	【ワイン専門店によるワインセミナーの企画・運営】 高級ワイン専門店ワイングロッサーの仕事を通じてワインを学び、学生向けのワインセミナーの企画に挑戦してください。企画力、計画力、実行力、柔軟性が養われます。世界の共通語でもあるワインに詳しくなることで、今後の社会人としての幅も広がります。	3	藤村 佳子 京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部
一般社団法人 Impact Hub Kyoto	【～花背フィールドラボプロジェクト～】 花脊は千年以上の歴史を持つ祇園祭のちまき笛を出荷しており、歴史的背景から「都の源泉」と呼ばれています。そんな花脊地域をフィールドにし、暮らしや生き方を学びながら、さまざまなバックグラウンドを持った人々と一緒に、環境が持続しながら発展する地域づくりに挑戦しませんか？	2	○坂本 清彦 龍谷大学 社会学部 高橋 結 立命館大学 共通教育推進機構
株式会社 MOTHERS	【サンガスタジアムのフードコートをバズらせろ！vol.2】 サンガスタジアムのフードコート店舗を中心として、京都サンガF.C.とのコラボ商品開発や飲食店運営のマーケティング戦略を企画して運営していただきます。仕事は楽しくなければ意味がない！人生をワクワクして生きるヒントがココにあります！	3	西村 雅信 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 デザイン・建築学系
株式会社 FPコンサルティング	【ウェルビーイングの知識を広めるプロジェクト】 「ウェルビーイング講習・検定」の受講者を増加させるために、「仮説立案」→「調査による事実確認」→「実践にチャレンジ」→「結果の検証」を実行していただきます。新規事業立ち上げ時の面白さと難しさを体験できるプロジェクトです。	2	◎桜沢 隆哉 京都女子大学 法学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

## 資料6. エクスターントップ（就業体験）コース講義概要

日程	コマ数	時間	講義名	講義単位	内容	
6/21 (土)	第1講	10:00～10:30 (30)	オリエンテーション①：プログラム参加にあたって	全受講生	プログラムの概要やプログラムに臨む心構え等を説明します。	
		10:30～11:00 (30)	リスクマネジメント講習①：事前学習に向けての心構え		インターントップ・プログラムを受講する上でのリスクマネジメントを学びます。	
	第2講	11:20～12:50 (90)	クラスの相互理解	クラス	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバーの紹介をします。	
	第3講	13:50～15:20 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定①	クラス	グループディスカッションを中心として、仮説と実習目標設定のための意見交換を行います。	
	第4講	15:30～16:30 (60)	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニケーション能力等について、専門講師を招いて講習します。	
	第5講	16:40～18:10 (90)			オンラインでのコミュニケーションの取り方を学びます。	
<p>受入先との事前打合せ（初顔合わせ）：6月26日（木）～7月11日（金）の間に実習先を訪問またはオンラインでの打合せを行い、 実習内容・期間の確認、事前学習レポート作成に向けてアドバイス等の指導を受ける。</p>						
事前学習	7/5 (土)	第6講	10:00～11:30 (90)	業界と社会に対する学習①	クラス	受入先担当者や修了生のゲストスピーカーによるお話をもとに受入先について探し、事前学習レポート作成のポイントを学び、内容を深めます。
		第7講	11:40～12:40 (60)	業界と社会に対する学習②		
		第8講	13:40～15:10 (90)	スキルアップトレーニング	クラス	ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて実践的理論を学びます。
		第9講	15:20～16:50 (90)			オンラインでのグループワーク、コミュニケーションの取り方を学びます。
	7/12 (土)	第10講	10:00～11:30 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定②	クラス	グループディスカッションを通じた、実習の仮説と目標の修正、確定
		第11講	12:30～14:00 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定③	クラス	グループディスカッションを通じた、実習の仮説と目標の修正、確定
		第12講	14:10～15:40 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定④	クラス	事前学習レポートの内容の充実
		第13講	16:00～17:00 (60)	リスクマネジメント講習②：実習・事後学習に向けての心構え	全受講生	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びます。実習にあたっての準備、確認・注意事項を確認します。
			17:00～17:30 (30)	オリエンテーション②：実習・事後学習に向けての事務連絡		レポート提出、実習中、事後学習に必要なポイント説明、事務連絡を行います。
	7/19 (土)	予備日	10:00～18:00	※事前学習日に講義休止が発生した場合の予備日		
実習	実習の実施（原則として8月1日（金）～9月12日（金）の期間で実施されます。実習期間中に担当コーディネーターによる中間指導があります。）					
補講日	9/6 (土)	補講日	9:00～10:30 (90)  10:50～12:20 (90)	※クラスによって実施される場合 があります		
事後学習	9/13 (土)	第14講	10:00～11:00 (60)	実習経験の共有①	クラス	実習において得たことや感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。それらに基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、レポートの内容を深めます。
		第15講	11:10～12:10 (60)	実習経験の共有②		
		第16講	13:10～14:40 (90)	実習経験の共有③	クラス	実習経験交流会に向けて、クラスとしての経験共有をまとめます。
		第17講	15:00～16:30 (90)	実習経験交流会	クラス グループ	実習を通して学んだことをクラスごとに発表し、他のクラスの発表を聞くことで、考え方や伝え方などを学び、事後学習レポートの内容に反映させます。
		第18講	16:40～17:40 (60)	実習経験の振り返り／全体講評／修了式		他のクラスからのコメントを踏まえ各クラスで振り返りを行った後、全体講評による振り返りと修了証を授与します。
	9/20 (土)	予備日	10:00～18:00	※事後学習日に講義休止が発生した場合の予備日		

■事前学習レポート提出期間：7月12日（土）～19日（土）

■事後学習レポート提出期間：9月13日（土）～9月27日（土） ※事前/事後学習レポート提出最終日の締切は12:00です。（時間厳守）

## 資料7. エクスター・シップ（就業体験）コース コーディネーター一覧

コース	主な業種・業界	クラス	受講者数	氏名	大学	所属等
ビジネス	観光・旅行	B1	13	岸岡 洋介	京都外国語大学	共通教育機構
	教育(学校・大学等)	B2	10	澤井 志保	京都産業大学	外国語学部
	エンタテイメント・レジャー 他	B3	10	須賀 涼太	京都産業大学	経営学部
	製造(食品/アパレル/繊維)	B4	10	関 智宏	同志社大学	商学部
	ホテル・旅館 他	B5	13	高野 拓樹	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部	キャリア形成学部
	商社 情報・通信・IT 他	B6	12	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
	小売り 他	B7	10	中道 一心	同志社大学	商学部
	マスコミ・出版・デザイン	B8	11	○ 濱田 崇嘉	龍谷大学	経営学部
	教育(学校・大学等)	B9	9	前田 充洋	大谷大学	文学部
パブリック	滋賀県官公庁・NPO	P1	5	○ 黒宮 一太	京都文教大学	総合社会学部
	官公庁	P2	7	戸田 香	京都女子大学	ジェンダー教育研究所
	滋賀県官公庁・NPO	P3	8	平本 肇	京都府立大学	農学食科学部
	京都市・他官公庁	P4	8	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際学部
	京都市・他官公庁	P5	8	松村 千鶴	京都府立大学	教職センター
	京都市・他官公庁	P6	8	山岸 達矢	京都橘大学	経済学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

## 資料8. 受講生意識調査集計結果

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習若しくはプロジェクト実施の前後に同じ質問に回答する形式の調査を行い、本プログラムが与える影響についての考察を加えた。

社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関する「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関する「有能感」、自らの社会における立場をわきまえているかについて知る「自己主体性」の3つの要素を測定するため、30項目の指標を用いた(表-1)。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

### 1. 実施日

エクスターントップ(就業体験)コース  
プロジェクト企画実践コース

2025年6月19日～6月23日／2025年9月13日～  
2025年6月14日～6月19日／2025年11月8日～

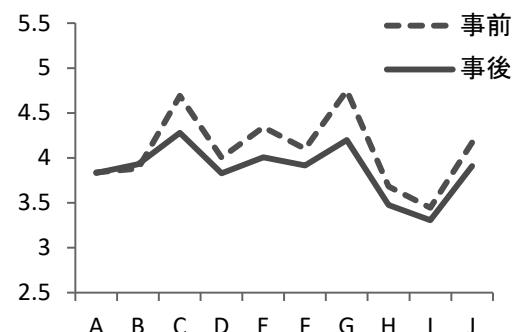
### 2. 回答数

	実習許可者数	事前		事後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
エクスターントップ(就業体験)コース／ビジネスクラス	107	132	85.2%	111	71.6%
エクスターントップ(就業体験)コース／パブリッククラス	48				
プロジェクト企画実践コース	14	12	85.7%	12	85.7%
合 計	169	144	85.2%	114	67.5%

表-2. 意識調査結果(比較)

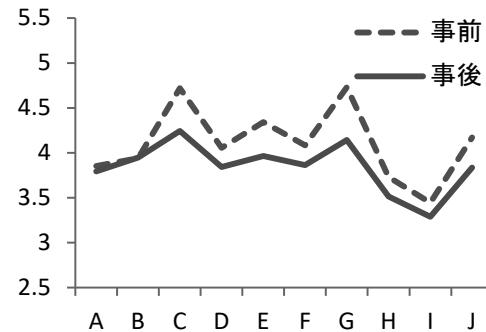
#### ＜全体＞

全体の結果については、就業体験型のビジネスクラス／パブリッククラスの変化を大きく反映するものであるが、両コースの共通点として「就職レディネス」に関する項目の中のC「学生と社会人の区別」、「有能感」の項目のE「実行力」、G「柔軟な物事の見方」の変化が大きい。このことから、本プログラムへの参加により、社会人になる心構え、客観的な自己理解に変化が生じることがわかる。



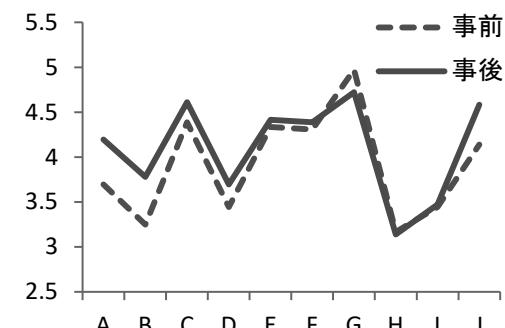
#### ＜エクスターントップ(就業体験)コース＞

全体的に事前調査が事後調査を上回る結果となった。特に「就職レディネス」に関する項目のC「学生と社会人の区別」、「有能感」に関する項目のE「実行力」、G「柔軟な物事の見方」、及び「自己主体性」の項目にあたるJ「自己理解」の変化が大きい。これらは、実際の仕事の体験を通じた社会人との関わりが大きな変化をもたらしたと考えることができる。



#### ＜プロジェクト企画実践コース＞

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。事前調査と事後調査の変化については、特に「就職レディネス」に関する項目のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」の変化が大きく、様々な職業、社会人との関わりながら長期間のプロジェクトを実行する過程が大きな変化をもたらしたと考えることができる。また、「自己主体性」の項目のJ「自己理解」の変化も大きく伸びている結果となった。



## 資料8. 受講生意識調査集計結果

表-1. 意識調査の指標と平均点

就職 レディネス	A 職場の人間関 係への理解	実習前		実習後		プロジェクト企画実践 平均	
		エクスターーンシップ		プロジェクト企画実践			
		平均	平均	平均	平均		
		4.34	4.00	4.31	4.10	4.17	
	職場の人間関 係と部下の人間関 係の複雑さを理解 できる。	3.56	3.85	3.58	3.69	3.79	
	職業人としての礼儀、 組織がどのように運営 されるのかある程度わ かる。	3.66	3.50	3.56	3.84	3.65	
B 組織で働くこと への理解	上司と部下の人間関 係の複雑さを理解 できる。 働くことがどうい うことか知っている。 組織がどのよう に運営されるの かある程度わ かる。	4.25	3.25	4.17	4.05	3.56	
	3.94	3.17	3.25	3.94	3.88	3.95	
	3.56	3.33	3.33	3.54	3.89	4.00	
C 学生と社会人 の区別	学生のアルバイトと社会 人の仕事は全く違うもの である。 意識や考え方におけ る社会人と学生の違 いがわかる。 定職に就かずフリーターとしてやつていくことはいやだ。	4.88	4.50	4.85	4.37	4.92	
	4.72	3.83	4.39	4.15	4.69	4.24	
	5.11	4.83	5.08	4.31	4.83	4.61	
D ジェンダー問題 への気づき	社会の裏側にある汚い面を ある程度知っている。 職場に男女差別の問題 があることを認識して いる。 今社会では、女性が働き続 けていくことは大変である。	3.71	3.17	3.67	3.69	3.33	
	4.42	4.06	3.75	3.44	4.37	4.09	
	4.03	3.42	3.42	3.98	3.75	3.84	
E 実行力	社会の裏側にある汚い面を ある程度知っている。 やるべきことを最後までや り遂げることができる。 与えられた仕事を上手くこなす自信 がある。	4.43	4.33	4.42	3.96	4.50	
	4.68	4.34	4.50	4.33	4.67	4.34	
	3.92	4.17	3.94	3.94	3.62	3.96	
F 環境適応力	異なる状況や環境にうまく適応 できる方だ。 いろいろな困難に耐えうる精神力 がある。 人間関係を通して学ぶすべを 知っている。	3.99	4.50	4.03	3.85	4.42	
	4.11	4.08	4.25	4.31	4.12	4.10	
	4.15	4.17	4.15	4.15	3.95	4.50	
G 柔軟な物事の 見方	広い視野で物事を見るよう にしている。 いろんな角度から考 えて、動くようにして いる。 人それぞれの個性を認 めることができる。	4.55	4.75	4.56	4.04	4.58	
	4.52	4.73	4.83	4.97	4.54	4.75	
	5.13	5.33	5.33	5.15	5.15	4.14	
H 生活規律	今、規則正しい生活を送 っている。 毎日休まず働くこ とができると想 う。	4.09	4.08	4.09	3.54	4.04	
	3.70	3.73	2.58	3.17	3.61	3.68	
	3.39	2.83	2.83	3.35	3.35	3.51	
I 社会へのコミッ ト感	自分は社会に 必要な人間だ と思う。 自分がは新しく会社 をおこすことに 参画する自信 がある。	3.79	3.92	3.80	3.45	3.92	
	2.70	3.44	2.92	3.44	2.72	3.44	
	3.84	3.50	3.50	3.81	3.81	3.61	
J 自己主体性	社会の一員としての自分を客観的 に見ることができる。 自分に欠けている部分をきちんと 把握している。 自分の興味・関心について人に説明 できる。 自分の進むべき道を十分に認識 している。	4.44	4.42	4.44	4.04	4.67	
	4.31	4.17	4.17	4.14	4.30	4.83	
	3.77	3.83	3.83	3.77	3.57	4.25	

---

## 2025 年度産学連携教育プログラム実施報告書

発行日 2025 年 12 月

発行・編集 公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
教育事業部 産学連携教育事業推進室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

TEL: (075) 353-9106 FAX (075) 353-9101

ポータルサイト

<https://consortiumkyoto-internship.jp/>

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 ウェブサイト

<https://www.consortium.or.jp/>

---